明治三十六年五月二十三日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百六拾二號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌 第百六拾貳號 目次

六月本會例會報知

來六月六日（第一土曜日）午後正一時半より晴雨に拘はらず例會を麴町區虎之門内東京女學館講堂に於て相開き左の講演有之候萬障御繰合せ可成御知友御誘引にて御來會被下度候也

口腔の疾病に就て　醫學士　石原久君

演題未定　ドクトル　須田卓爾君

明治三十六年五月

私立大日本婦人衞生會



東京帝國大學教授醫學博士緒方正規君

婦人衛生雜誌第百六拾貳號（明治三十六年五月二十三日發行）

演説

●内臓外科の話

醫學士　佐藤達次郎
佃速記事務所員速記

私は今日初めて此會に臨みまして貴夫人方並に令孃方のお集りの處で一場のお話を致しまする機會を得ましたのは私の光榮とする所でござります私は極く話が拙てあります隨つて話を致すと云ふことが極く嫌の性分でござります今年の春に三浦令夫人が御訪ね下されまして、何か話をするやうにと云ふ御話でござりましたが、其時には他に用事がありましてツイ出ませぬでしたが、今回又岡田令夫人のお勸めに依つて此席に參りましたが格別有益なお話をすると云ふ譯にも參りませぬ特に私は書生上りでまだ修業中の者でございますから實驗と云ふことも少なく隨つて詰らないお話を致すより外仕方がないのでございますが兎に角お勸により罷り出ました次第でござります

今日は内臓外科と云ふお話をいたしまする積りでございますが内臓外科と申すと隨分問題が大きうございますので僅の時間で十分お了解になるやうにはお話か出來兼ねますがごく大體の所をお話いたし次ぎに今に持つて參りまする二三の標本を御目に懸ける積りでござります普通腹の内の病氣と云ふものは誰でも素人の方々は内科の領分であると思ひ又手足に怪我をしたとか脊中に腫物が出來たとか云ふ時には外科の方の領分であると云ふ考へを持つのが一般でござりますが今日では腹の内の病氣でも内科の手當即ち藥を服むとか注射をするとか電氣を掛けるとか云ふやうなことばかりでは癒らないのが澤山あるツマリ外科の手術と云ふやうなことに據りませぬでは

癒ることの出來ぬものが澤山ありますそれを内臓外科と謂つて居るのでござります内臓と申しますと胸の内の肺とか心臓と云ふやうなもの又は腹の内の腸胃、腎臓、脾臓、卵巣、子宮、と云ふやうなものも總て含んで居りますけれども此胸の内の肺と心臓と云ふものは外科で療治を致す場合が割合に少ないのでありますから今日は主に腹の内の病氣の方のことをお話いたす積りでございますソコでどう云ふものが内科の部分で療治をするか又どう云ふものが外科の方に屬するかと云ふことを區別しなければなりませぬ此區別と云ふものは勿論素人の方には出來ない譯でございます先づ醫者が見て是は内科の領分ぢやないか或は外科の領分ぢやないかと云ふやうな風に區別をする併し極く解り易いものになりますと素人のお方でも是は藥を服で居るばかりでは癒らないと云ふことが解りましよふが少し込入つたことはどうしても醫者でなければ解りませぬ併し又極く熟練された有名な醫者でも區別の出來惡い場合が稀にはございます其區別を早く附て、さうして内科に屬するものは内科で治療をし外科に屬するものは早く外科に來て治療をすると云ふことは其病氣の治療に就ても經過に就ても又豫後のことに就きましても大變に關係がござります極く初めの中に手術をいたせば癒つたらうと思はれるものも時期が遅れた爲めに癒り惡い又手術をしても再發するとか或は取切ることが出來ぬで仕舞ふと云やうなことが隨分あります、それて内科に屬するか外科に屬するかと云ふことを區別するのが必要であると云ふことは醫者ばかりでなく一般のお方々も御承知てなければなりませぬ

今日ては人々が德義とか道德とかと申すことを重んじますから單に利欲の爲め又は名譽の爲めに貴重なる人命を扱ふ醫者が自分の領分でない病人を何時までも自分の病人にして置て、さうして治療をする機會を失つて仕舞ふと云ふやうなことが最早ないと信じまするが實際に時期の遅れたるものに遭遇致すことは少くないのでありますデ一人の醫者に任せ切り

にして置いて宜い場合と又時に依ると醫者に任して置けぬ場合も、其醫者の人となりに依つては考へを要することでござります

又病人の方に於きましても醫者が懇に診察の上是は外科に屬すると云ふやうなことを言つても又内科の方では治療が屆かぬと云ふやうになつて患者は切らるゝことを好まぬ誰も人を切ることを好むものはないのですが止むを得ぬのであります然るに患者は遂に醫者を變ても自分の氣に入つたやうに藥を飮む治療して貰ふと云ふやうなお方もあるさう云ふことをして其第二の醫者が矢張り自分が遣つて見てもドウモ内科の方では往かぬ外科の方であると云ふことを言ふとさうすると又第三の醫者に持つて行つてツマリ自分の氣に入る方に向けると云ふやうなことをする、さうして畢竟必要な時機を失つて仕舞ふと云やうなことが往々あるやうに思ふさうして愈々其患者が病氣の苦痛に堪えられないで外科の方に廻つて來る場合にはモウ時期が後れて居る、初めの内ならば手術も屆き治療も屆くてあらうと考へられまするものも既に皆が見放して愈々外科の方に行なければならぬと云ふ場合になりましては復た手を着けることの出來ないと云ふやうなとがござります、さう云ふことは醫者の所に來られる方々の御注意も必要と思ひます

其内科に屬するか外科に屬するかを區別するには種々の法がございますが時に依ると中々區別の付かぬ時があります先づ其一例を擧げますると云ふと胃癌と云ふものがある此胃癌と云ふ病氣は胃に出來る腫瘍でございますから初めの内は食事を致しますと胃の中に溜るとか時としては吐くとか或は少々痛むとか胸が張るとか種々なことがありますそんな詳しいことはお話いたしませぬが兎に角胃癌と云ふのは胃の病氣の中で最も性質の惡い病氣でチョット藥を服んで居る位では癒りませぬそれで如何にかして其胃癌であると云ふ診斷を早き時期に於て確かに附けるのが大變必要でございます若し病氣が進で居らぬ時

に胃癌であると云ふ診斷が附きますと醫者の方で療治をして取つて仕舞ふさうして其跡を縫合せると云ふやうなことが出來ますソ　シテ間が宜ければ再發は致しませぬ又惡い場合には再び起つて來ると云ふやうなことがある併し再發しても其人の命を多少長くすると云ふことに就ては此療治をせぬて置くよりは利益があります胃癌と云ふやうな病氣は性質の惡い病氣でございますから全然除つても復た出て來ることが往々あります其部分に出來ぬでも他の部分に出來ると云ふやうなことがあります併し極く初めに療治をいたすとズツト永く癒つて居ると云ふことが出來ますソコで是は胃癌であると云ふ診斷を早く附けることは如何して出來るかと云ふ問題が出て來ます先づ胃の幽門部即ち胃の下の方で腸に移らんとする部分に癌が出來たと假定へたしまするとロの方から食事をした物が胃に溜て腸の方に行かぬと云ふやうなことになりそれが澤山溜て來ると自然それを吐いて仕舞ふ又時に依ては幾らか其胃から血が出る血の色が變化して恰度咖啡の粕と云ふやうな赤黑い色になつて口の方から出ると云ふやうで是は胃癌であると云ふことは確かでも、さう云ふ時期になつては治療をしても餘り宜くないのでございます

前にお話致した若し癌に似寄つたやうな症狀がある併し腫瘍らしき堅い物が手に觸れぬ疑はしき場合がある、さう云ふ場合には永く時を待たぬで是は眞正に癌であるかないかと云ふとを知るためには診斷的腹壁切開術或は試驗的切開腹術と云ふとを致します即ち診斷を確めるために腹を開いて見る普通腹の眞中を縦に二三寸切つてさうして手を腹の内に入れて此邊に有りさうなものだと思ふ場處を探つて見る若し間違つてそれが癌でない場合には其患者に取つては大なる幸福でございますが又恰度こちらの想像して居つた如く癌であつて未だ著しく其癌の進んで居らない場合には手術をしても經過が大變に宜しい又再び發つて來ると云ふことも割合に少なくつて濟みます、さう云ふとからしても早く診斷を附けて置

くと云ふことが必要でございます併しチョット腹を開くと云ふことになりますと、人は大變にそれが重い事のやうに思つて、なか〲容さぬが今日は外科の方も進歩して居りますから腹を開いて見ると云ふ位なことは全く危險なしに容易に出來ますさうして先づ胃とか腸に出來たものを調べる、又試みに開いて見てそれが直に療治が出來さうならば療治をする又難かしければ止めると云ふことは容易いのでございます先づそれが試驗的或は診斷的開腹術で是は隨分行つて見ても宜しいことでございますが割合にさう云ふ機會が少なうございます大抵は外科醫者の方に廻つて來る時分には極く瞭がつて居るから手術をいたしても成蹟が宜しくございませぬ

それから若し其胃の幽門部の癌が進んで居てさうして除去ることが出來ぬ場合にも矢張如何にか方法を付けなければなりませぬがそれには胃と腸とを縫合してさうして腫物があつて食物が通らぬ部分を通らずに他に道を付けて食物が腸の方に行くやうにして身躰を養ふと云ふ方法がございますそれを腸胃吻合術と申します

又食道の下部とか眞中の邊に腫物が出來て胃の方に食物が行かぬ場合には腹の皮を切つて少し胃を引出して皮膚に縫ひつけ孔を一つ開けてそこから牛乳でもソツプでも其他滋養品を注込むと云ふことを致します勿論其處から注込んだばかりでは食物の味がせぬのは至當でございます併し此の瘻孔に護謨管の一端を挿入し其他端を自分の口に付けて其管の中へ一旦口の中へ入れて味はつた食物を吹込むと云ふやうなことを致しますツマリ飲込む代りに吐き出すのでございますが幾らか旨い物の味を知ることが出來ます

其外まだ胃の手術の方法が色々ありますが簡單に申すと畢竟胃に行くまでの食道の邊に障碍があつて是を去ると能はぬ時には腹に穴を開けて、外から食物を入れる又胃と腸の界に腫物が出來て邪魔になつて腸の方に行かぬと云ふ時には其處を除去るか除るこ

との出來ぬ時には腸と胃とを縫合して交通を付けるのでございます

それから腸の方も同じ譯でございます腸の全體の長さは三間程もありますが其途中に腫物が出來て食物の通らぬ場合には矢張り切去つてさうして縫合せる又それが取れぬ場合には其腫物の上の此部分と其下の部分を縫合せる又腸の一部分を腹壁に縫着けて此處から食物を入れるそれから又極く下の方で腸を腹壁に縫付け大便を出すやうにする是は腸と胃の療治の仕方でございます

前申し述べました如き腫物が出來た場合でなくも腹が急に膨脹れたり或は漸々に膨脹れることがある即ち何處か途中が捩けても又屈曲しても交通が出來ぬやうになり又或は他の腫物のために抑付けられて腸の交通が出來ぬ場合に腹が膨脹し所謂腸滿となり漸次痛も增し嘔吐を來たし甚だしきに至れば口から大便を吐くに至りますさう云ふ場合にも矢張り腹を開いて障碍のある部分を除くのでございますそれから盲腸炎と云ふのがありますが時に依ると是は內科でも療治をするし外科でも致しますが漸々に腫れて來て膿などが溜つて痛むやうになると何うしても外科の手術を致さなければなりませぬ其他膽石と申しまして膽汁の出る道に石が出來ることがございます拇指位の大きさの石が肝臟から膽囊の間の道に挾まつたり或は膽囊と云ふ囊の中に留まり又膽囊から腸の方に行く道があつて其間に留まつたりして非常に腹が痛むと云ふやうなことがある、時に依つては其石が小さい石であると療治を致しませぬでも膽汁が溜つて、石を押流すと云ふやうになつて腸の方に流れて出て仕舞ふと云ふやうなことがありますが若し其石が大きいとさう云ふ譯には往きませぬ矢張り手術を施さなければなりませぬそれから脫腸と云ふのが能く子供にても大人にてもありますが腸が腹腔內から膨れ出て來るのでございます此脫腸と云ふやうなものになりますと療治して貰きませぬと往けませぬ何ともない時には唯抑込んで置けば腹の內に這入つて居

るが時に依りますと其出たのが毎時のやうに押えても戻つて行かないで其處に留つて居るさうすると其部分が大變に痛みます腸の一部分が挾まるのでありますから大便などの通じがなくなり腹が膨脹れる長く時を經れば大便の通せぬと云ふばかりでなく其挾まつた部分の血管が押されて血液の循環が惡くなりまして其部分が毀れ大便が其處から出る時としては一命を失ふと云ふやうな風になります危險のない時は其出たのを押えて置けば濟みますが時に依るとさう云危險があります、それ：何時其危險が來るか分りませぬ、又そんなことが起るかも知れぬと云ふとは普通御考へになつて置かなければならぬと思ひます又此頃は總ての療治が能く出來るやうになつて居る場合でありますから若しさう云ふことがあるならばチヤンと療治を致して危險を未發に防ぐことは必要なとてあります。それから腎臟病などは大抵內科の方で療治をいたしますが併し又內科の方で如何しても癒らぬものが種々ござりますそれも外科の方で療治を致します、それから御婦人方では子宮の癌ど云のがありますが之も藥を服だり一時注射をすると云ふやうなことが流行りましたが其なとを致しても癒りませぬ、どうしても療治をして除て仕舞ふより外に仕方がございませぬそれから子宮の纎維腫とか或は筋腫とか云ふやうなものがあります又卵巣の病氣では卵巣囊腫と云ふものが極く澤山あります卵巣に囊が出來て其中に水が溜るのであります其他種々ありますが御退屈でござりませうから此位に致して置きませう

此處へ持つて參りました標本は今お話いたしましたものを實物の標本で御覽に入れます積りでござります大凡斯う云ふものが子宮癌であるとか或は腎臟には斯う云ふ病氣があるが、それは藥では癒らないと云ふ御想像もお着きにならうと思ひまして持つて參りました後に傍へ寄つて御覽なさい

標本一、是は腸に出來た癌でございますさうして腸の道が塞がつて食物が通らぬやうになるのです

同　二、是は直腸に出來た癌です、さうして大便の通じる道が狹くなる

同　三、それから是が胃癌です

同　四、是は卵巣に出來る嚢です卵巣嚢腫と云ます之などは此處に莖が着いて居る、さうして此莖が時とすると捩けるとがあります、さうすると血行の障害を來たし嚢の中に血が出たり腹が痛むだり致します是は此手術をする時には二廻り半ほど捩けて居りました卵巣嚢腫の如き惡性のものでなくも時に依ると危險のあることがあります、矢張り早く除つて仕舞ふ方が宜しいのです

同　五、是が子宮癌と云ふ癌でございます大分に廣がつて居るから腹を開いてさうして上の方と、下の方とから切つて取つたのでございます

同　六、是は矢張り卵巣から出來て骨盤の內に一パイに廣がつて居つたのでございます卵巣の乳嘴腫と申すものです

同　七、是が子宮の纖維腫です、斯う云物が腹の內に出來る是は取つたばかりの時には目方が三貫目ほどありました

同　八、是は腎臟の腫物です、嚢のやうになつて居ります

同　九、是は卵巣に出來たもので、此嚢の中に髮の毛などが這入つて居る、又此邊に齒のやうなものが出來て居て、さうして何か骨のやうなものも附着いて居ます

同　十、是には又石が澤山あります膀胱結石と云ふものです小便の出る道に邪魔になります

大躰斯う云ふ風な物が腹の內に出來ますから、腹內の病氣は何でも單に藥を服ば癒ると云ふ譯には行かず即ち外科の手術を施さなければならぬものも少くない且ゝ手術を受くるには成るべく時期の後れぬやうに致さなければならぬと云ふとは勿論御承知のとと存じまするか標本に就て手術致したものを御覽になり咄辯ながらくど〳〵しく申上げましたとが幾分か御參考とも成りますれば私の甚だ幸福と存じます

齒の衛生（前號の續）

ドクトル　久保川誠膜

側通記事務所員速記

●是より永久齒のお話に移ります、吾々大人の齒は一度生えたのは最早生代ることはないから勿論注意しなければなりませぬ、永久齒の掃除法に就いて皆様が少し間違つて居る所を申し上げたい、貴下方は御實行になつて居るかも知れませぬが、世の多くの方は齒の掃除をするのに朝お起きになつてからなさる、お起きになつてから非常に叮嚀に掃除して居らつしやるが、是は朝の御飯がおいしく召し上がられるだけで、齒の衛生上何の効能もございませぬ、デ是は食後に必ず爲さらなければならぬのです、私は三食後に之を實行して居ります、食後幾ら患者があつてもどんな忙しい用事があつても、先づ食卓を離れたら直に齒の掃除をする場所が出來て居つて、其處で齒の掃除をしてから學校に參るなり其他の職を執るやうにして、私はそれを實行して居ります、ソコで最も必要なのは夜分お寢みになる前にお掃除なさるのが必要である、所が多くの方は夜は爲さらない、どう云ふ譯で之が必要であるかと云ふと、夜分寢んだ後ではもう齒を使ひませぬから、從つて機械的の舌や何かの運轉の爲に食物の滓片などを去ると云ふ斯う云ふ機會もございませぬ、のみならず口の内は御承知の通り溫度も好し食片も附て居るから、黴菌の發育には適當の場所で所謂黴菌の最上の養成所と申しても宜しい、故に夜分御寢みになつた時には必らず黴菌の作用が何時でも起つて來るに違ひない、それですから皆さんが御寢みになる時には先づ御床に這入る前に齒のお掃除を爲さらなければなりませぬ、私は寒中夜の十二時頃に寢に就いても、忘れたなと思ふと更に起上がつて齒の掃除をしてから就寢するやうに實行して居ります、デ又此掃除法に就て皆樣の爲さり方に間違ひがあるだらうと思ふ、掃除をするには種々の機械が要ります、先づ毛のブ

ラッシ(楊子)それから小楊子と云ふものもございますが、絹糸の如きものも必要であります、それからアルカリ性の歯磨粉、それから其後で必要なのは防腐性の含嗽水、それで先づ毛楊子からお話し致しませう、

毛楊子は成るたけ毛の硬いのが宜しい、或方は歯齦を壞さないために毛の軟らかいのが宜しいと言ふが私は反對です、硬いのが宜しい、之に依つて歯を惡くなさると云ふことは決してない、百姓に限らず誰でも使ふ方の腕は發達して居りますが使はない方の腕は瘦せて力がない、斯う云ふやうな譯で歯齦の如きもさうでありませう、硬い毛で摩擦すると最初は出血もし、痛みもあるでありませうが、追々出血も少なくなる、歯齦も固くなる、斯う云ふやうな工合で堅固なる歯齦となる、のみならず、硬い毛のブラッシをお使ひになれば歯の掃除も十分に出來る、軟かいのでは十分に出來ないのみならず、軟かいのは二三日も御使用になれば直に極く軟かになつて數日御使ひになれば使用に適さなくなる、それからブラッシは成るたけ後で掃除の能く出來るのでなければなりませぬ、ブラッシに消毒の出來ぬやうな毛が重なり合つて草の生えて居るやうなまんべんなく出來て居るのは良くありませぬ、却つて麥畑のやうなさ、くを通つて間が隙いて居るやうなブラッシが宜しい、斯う云ふのであると毛の間にも何も付きませぬし掃除も仕易い、さてブラッシを以て掃除するにはどう云ふ風にすれば宜しいか、皆様は通常横にお持ちなすつて横の方へ摩擦なさるであらうと思ふ、が是は間違つて居ります、それでは成程歯の面は白く奇麗になりますが大切の歯の間と云ふものが誠に掃除が仕惡いです、それ故にブラッシは縦に使はなければなりませぬ、即ち上顎になるとブラッシを上から下の方へ下顎は下から上の方へと云ふやうに縦に使ふ、斯うすると云ふと歯の間の掃除が十分に出來ます、且つ又摩擦の力で歯の面を減らすと云ふ虞れも從つてなくなる、斯う云ふ風にブラッシを五分か

十分使はなければならぬ、敢て此位のことは出來ないことはなからうと思ふ、歯の衛生を顧んずると云ふ點から幾ら御忙しい方でも出來ないことはない、次には瓜楊子です、それから絹糸、絹糸は御使ひになつた方もございませうが絹糸の細いのを三四本集めて之を澤山拵えてさうして五寸六寸位に切つて小さな箱へ入れて置く、と宜しい、それを一本持つて歯の間を掃除する、ブラッシでも或は瓜楊子でもいけない所は絹糸を以てすると非常に奇麗になります、併ながら絹糸のやり方は餘程六ケ敷うございます、皆樣がちよッと御試しになれば分りますが、絹糸を歯と歯の間に通す時に或時につかへる所があります、是は歯の觸接點と申して歯が摺合ふ所であります、其處を通り過ぎる所が六ケ敷い、通す時に力餘つて歯齦を傷けるやうなことがある、それ故に此糸を通す時には歯と歯の摺合つて居る所を通り過ぎた時に御自分で少しお加減なすつて歯齦に觸れないやうにしなければなりませぬ、私は矢張り之を實行して居ります

次が歯磨粉、即ち歯磨であります、之に就きまして[illegible]、多分皆樣の所では十分に良いのを使つて居られるでありませうが、世の中には大分惡いものがある、甚だしきに至ると房州砂と云ふ磨砂、能く皆樣の御家でお女中が鍋などをお磨きになるあれを入れて製して賣つて居るのが澤山でございます、さうして柳楊子と云つて柳で拵えた楊子がある、私は始終東京で見ますのに一生懸命やつて居りますが、あれは非常に害がございます、歯を摩擦するのみならず歯と歯の間の掃除などゝ云ふものは無論あれては出來ませぬ、貴下方の内てはさう云ふ惡いのはお使ひになる方もございますまい、安心な最も良い歯磨は指の間で摩擦して御覽になるとツル〳〵して、少しも粒々な感覺をも與へないやうな細かいものでなければなりませぬ、それて歯磨の性質はアルカリ性でなければなりませぬ、アルカリ性であると云ふと口の中に乳酸と云ふ激烈な酸が出來まして

も之と調和して齲歯の起るやうな害の無いやうにする、それ故アルカリ性の歯磨でなければなりませぬ、どう云ふのが歯の爲に宜しいかと御質問になりますと、私の申し上げるのはそれは沈降性炭酸石灰と申して是は皆樣が何處の藥种屋で求めても得られる、又皆さんがお醫者に頼つても出來る、さうして是れは少し位ひ飲んでも差支ない斯う云ふやうな粉でございます、最も叮嚀にすれば沈降性炭酸石灰と云ふものへ薄荷なり桂皮油なり其樣なものでも入れて混和して御使ひになれば宜しい、是は歯磨の御話でございます、

さて最後に嗽の水が必要であります、即ち含嗽水、之には石炭酸一グラム、グリスリン半オンス、それから薔薇水一オンス、蒸溜水百六十グラム、斯う云ふやうな分量の含嗽水が宜しい、丁度是れで行くと石炭酸二百倍になつて居るからお口の中で格別刺激する程のこともございませぬ、又香ひが惡いと云ふことはない、何となれば薔薇水が這入つて居るから……又グリスリンと云ふのが這入つて居るから味も宜しい、薔薇水が香ひを與へるから石炭酸の臭を消します、石炭酸と云ふものは貴下方は御嫌ひでもございますまいが、世の中には石炭酸は虎列剌病の藥たと言ふて考へて居る方もある、石炭酸の這入つた嗽藥はいけないと云ふ方もあるかも知れませぬけれども、是は非常に宜しい、又或學者は仰しやるでせう石炭酸二百倍位ゐでは黴菌を殺す力がないだらう、斯う云ふやうに思ふ方もあるけれども何にせよ石鹸で手を洗つても奇麗になる程の効能もあるから石炭酸二百倍でも幾らか黴菌の働きを邪魔する位の力はあると思ひます、米國の歯科醫が或醫者に向つて斯う云ふことを話て居るから御參考のために申して置きます、又神經の强い御心配になる方は石炭酸が這入つて居ると唾と共に吞込むと或は胃に害をしやしまいか、斯う云ふ御心配の方もあるでありませう、併し今まで此石炭酸二百倍の含嗽水を用ゐた爲に胃病に罹つたと云ふやうな例は何はない、併しな

からです、それを御懸念なさるならば含嗽水を御用ゐになつた後で一旦沸して冷ました所の水で更にもう一度嗽をなされば之に越すことはございませぬ、それから是は貴下方が御自宅に於ての衛生法でございますが、更に歯科醫に就て御記憶なすつて戴きたいことは歯石障碍と云ふので、御承知の通り皆さんのやうに幾ら叮嚀に歯を掃除する方でも多少歯石又俗に歯鹽と云ふものは付いて居るものであります、ソコで此歯石と申すものは、是は唾の中の石灰鹽類が機械的に沈澱して歯に附着してあつて、之が次第々々に蓄積すると歯齦が下つて來る、又歯齦の下側内部の方へも這入つて來る、甚だしくなると歯が動搖する、又更に附着して歯の根の突端まてそれが附着して居る方もある、是は何處までも歯科醫に就て御取去りにならなければなりませぬ、是は一年に少なくとも三四回は為さらなければなりませぬ、私は一年に二回と云ふ御照會を皆さんに致したい、二回したならば格別惡いことはないだらうと思ふ、で外に未だ血石と云ふものがある、是は性質の惡いものでありまして血液内の色素が沈澱したものである、ソレで血石と申す非常に固いものは歯齦の中に這入りまして、骨膜を刺激してそれが為に濃汁が歯の間から出る、斯う云ふやうな病氣が起る、それから大層惡い病氣でパイヲリヤアルベオラリスと云ふ病氣などの起ると云ふ想像は付いて居りますが未だ發見にはならぬ、血石が多く附着して居ると此等から起るかも知れませぬですから、皆様が一年に二回位はさう云ふ風な種類の沈着物を除去しなければなりませぬ、

そこで歯の根の腐蝕したものが口の内にありますなら必らず早く用心しなければなりませぬ、勿論口臭にも色々ございますが、扁桃腺が糜爛たとか、或は腸内に瓦斯が溜つたから種々の原因がありますが、齲歯のある方の人は矢張り口臭の一原因となるのである、ソコで痛むばかりではなく世の中に生存して居る者はお互ひに注意致すことが必要である、お互

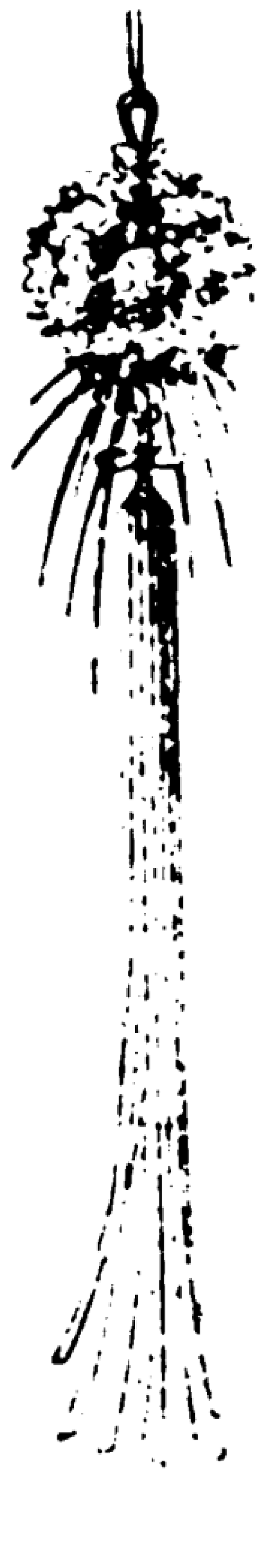
ひに敬愛すると云ふやうな意味からも必要であるから成るたけ口の中は他人を苦める臭氣を造り出す歯の根や齲歯がないやうに清潔にしなければなりませぬ、そこで或る人の口の内には歯の根、腐ッた根が殘つて居る、之を保持して置く方もある、是は宜くない、歯の根を殘して置くと他日此周圍が更に不潔になるのみならず、歯の根の穴を通つて黴菌や種々のものが這入つて、それが爲に歯槽膿腫などと云ふ病氣が起つて苦しめるのみならず、それが爲に口臭の原因になりますからして、歯の根は必らず御取去りになつて口内を清潔にしなければなりませぬ、

もう一つ申し上げたいのは皆様にはございますまいが義歯と云ふものがある、義歯と云ふのは人工の歯である、之を御所持の方は餘程清潔にしなければなりませぬ、矢張り吾々の歯を掃除すると同じやうに、食後には御取去りになつてブラッシで掃除をする、其後で先刻申した嗽の水で御洗ひになつて、さうして御用ゐになるやうにしなければなりませぬ、何となれば若しもさうならないと口蓋の粘膜や下顎の歯齦などを刺激して、それが爲に出血し易く、誠に宜しくありませぬ、のみならず義歯は此歯槽突起の吸收を促すと云ふ弊害がある、之を能く掃除しないと天然の歯が腐蝕して齲歯となる、故に若しも出來得べくんば近來出來ます所の架工歯と申すものに據るが宜しい是れはゴムなどの床なく歯より歯に橋を架するので是は衛生上にも宜しうございますし取りはずす必要もなく舌の運轉を防害せず宜しうござゐますから出來得べくんは斯う云ふ方を用ゐられるが宜しいのであります、

そうでもう一つ最後に申し上げたいのは、東京に於きましては最早見受けませぬが婦人の涅歯と云ふこと、所謂鐵漿と云ふのであります、是は我帝都には最早寥々として曉の星の如く極く僅かでありますけれども、地方などに行くと立派な方がなすつて居らつしやる、之を私は段々實驗して見ますのに、此鐵漿を十年若しくは十五年の永い間なさつたお方の歯

は、大變に減つて小さくなつて居ります、或人の鐵漿を落したのを見て驚きましたが、海綿のやうに歯に穴が明いて居るのです、是は酸類の爲に琺瑯質が侵されて減つて參つたやうに見受けられる、それから反應を調べて見た所が、鉛ふしと云ふのがあるが、是は少しく酸性の反應を呈して居る、されば御承知の通り酸類は歯に害がある、石灰鹽類は歯にかゝつては誠に弱い、十分に歯が黑く付きませぬからして更に鐵漿下と云ふものを用ゐる、是は調べて見ると明礬が這入つて居る、それはやはり酸性であるから是も歯に害があると私は考へる、のみならず斯う云ふ黑い歯を致して居りますと色の落ちるのを憂へまして歯磨などを使ふことは先づ出來ないと云ふ風な傾きになります、從つて掃除も行屆かない、斯う云ふ風になるから、斯う云ふやうな方が貴下方の目に觸れたならば、どうか黑い歯を落して天然の美くしき白い奇麗な歯を養生し攝生した方が宜からうと云ふ御注告を爲されるやうに御願ひ致します、

終りに臨んで一言致したうございますが、御承知の通り歯科衛生の普及を致さうと欲するならば　私が切に此會に向つて希望するのは、どうか皆さんが卒先して此歯科衛生のことを御實行なすつて社會の先導となられて、どうか他の一般の兄弟姉妹にも歯科衛生と云ふことを十分に行屆くやうに、貴下方の御盡力を願ひたうございます、誠に長々詰らぬ話しを致しまして、嘸ぞ御退屈でございませう、茲に皆さんの御清聽を謝し、並に大日本婦人衛生會の益々御隆盛にならむことを祈り奉つります、





寄書

●誤解されたる衛生

醫學士　竹中成憲

凡そ人、天下に名を成し國家に盡さむとせば、長命ならざるべからず、惜しき人は早く死するがゆゑに下らぬものが圖らず高地位に昇るあり之を「ところてん」(心太)主義といふ實に人は心を太くして長命すべし必らず下より持ち上げられて「ところてん」の如く上に出づるなり宜哉「命あつての物種」之を歴史に徴するに敢て技倆に長せざるべきも生命長きが爲めに事を成せし人澤山あるべし又技倆万端完備せる人も短命なりしが爲に物にならざりしならむと思はるゝもの尠からず而して壯年者の爲めに凡そ肺結核程恐ろしきものはなからむ學生の死するもの脚氣にあらざれば肺病にして實に肺病は年々增加しつゝあり徴兵の如き强壯者を集めたる團隊に於てすら肺病は益々其數を增し明治二十年には壹万人に付僅拾壹人なりしもの漸々增加し明治三十三年には壹万人に付四拾四人となれり

吾人は之を豫防するの道を講せざるべからざるも予の考に據れば豫防よりも寧ろ防禦に重きを置かざるべからず

假に定よ己れの愛子肺病となり其子素より肺病の他に傳染する事を知らず己れの半ば食したる菓子を母に差出し之を「オタベ」と言へる場合に母は之を拒絕し得べき乎蓋し情に於て能く拒絕し得ざるべし妻が夫を夫が妻を看護し、親友相互間の疾病に在ても之に類する事多々あらむ豫防を厳行すれば必らず患者を冷遇するの傾あり由來、傳染病に關する諸法令は皆健者を保護するを以て主眼とし病者其者を愛撫するの點に於ては欠くる事多し病者の大多數は殆んど

皆自然的に本人の過失なくして病に罹りたるもの洵に氣の毒千万の事ならずや然るに何々病者は彼れ傳染病者なり須からく之を他所に移すべし癩病の如き之を千里の外に追ふの傾あり之を愍然といはずして何と謂ふべき乎近き將來に於て「肺結核取締法」出づべし肺病患者こそ氣毒なる點多々あるべきを信ず然らば如何にせば此防禦力を養成し得べき乎他なし平生に在て身體を强壯に爲し置くべし强壯なるものは大抵の傳染病に打勝を得べければなり

衛生は先體之を保健とも稱へたり弱き人を强くし强き人は弱くならざるやう心掛る事にして

此衛生の道に個人衛生と國家衛生との別あり前者は各一個人の衛生にして例之は暴飲暴食を避くるが如し後者は多數の人と利害を共にするものにして例之は水道布設の如し國家衛生にして世に誤まられたるものは殆んどなし個人衛生に到ては誤解も亦甚だしきものあり一は多く卓上、說を作るに出り一は醫師各個人己れの嗜好如何に出る酒を好むものは酒を禁せず下戸醫は菓子を許可す。[illegible]以牛乳漸々流行を來したれども日本人が牛乳を始めてより日本人の體格は果して維新前に比して上等となれる乎、否、牛乳行はれてより都て本邦人の薄弱となれるの感あり、維新前のものとは牛乳を用ゐずして强壯、寒中「シャツ」、股引、足袋を用ゐず而して感冒するもの今に比して少かりき、西洋人は殆んど生れたるの日より之を慣用し之を飲む事吾人の味噌汁の如し彼等より之を取去らば彼等の困難、察するに餘あり之に反して本邦人の堂々たる男子每朝五勺の牛乳を飲みて大に滋養を得ると信ずるが如き殆んど迷信といはざるべからず醫學上の分析の結果とするも牛乳一合は辛ふじて小鷄卵一ヶの價値あるに外ならず

體格上等なる學生の學資を裂きて之を購ふものあるは少しく鑑みて可なり予の最も不快に感ずるは貧民の之を迷信するものある事是なり家に油なく、米なく、藥代なきもの終末の銀貨を投じて之を購ひ之を

以て無二の神薬を得たりとするが如きは豈ホコトンならずや由来、牛の乳は牛の子の飲むべきものなり牛の子の飲むべきものが人間の子に大効ありとは既に天理に反すまして人間の親の之を常用するに於ておや

今回大坂大博覧會不思議館に出品せる嬰兒化育器にも牛乳を用ゐず人乳を用ゆと聞く

然れども一定の病に在て他の平食よりも牛乳の良しき事は明にして此點は予も亦同意す只無病健全、立派なる歯を有する大人の之を以て得意の天より定まりたる飲料と心得る事の不都合を戒むるなり殊に牛乳に據て牛の結核を人類に傳染せしむるの事實あり爲めに牛乳を用ゆるに當り之を煮さしむるの必出は實に牛乳中の「牛の肺病の虫」を殺す爲めなり豈注意なくして叶ふべき乎近年肺病の原因發見者たる獨逸のコッホ博士は牛の肺病と人間の肺病とは別物なりとの事を主張するも全世界學者の大多數は之に反對するものにして兎に角、牛に肺病の多きは事實なり外國種のものを最も然りとす

鷄卵、素より可なり然れども牛乳の部に述ぶると同一の事をも思はざるべからず予は實に人間が穀類以外に殊に病に在て滋養品を求むとせば之を以て最上とす牛乳には詐僞の行爲ある事あり古來未だ鷄卵の僞物を聞かず左れど無病健全なる人間に鷄卵は欠くべからざるものにはあらずと何となれば人間は完全なる歯を有し殊に臼歯と稱する穀類を嚙む爲めの歯を有す宜しく草食すべきもの肉食既に恐らくは天性の食にあらずまして鷄卵の如き歯の必要なきものは天與の常食品にあらざる事明ならずや然れども病床に在て之を賞用すべきは尚牛乳の部に述べたるが如し先づ貧者の滋養品としては實に最上とすべく貧者は肉ペプトン、肉エキス、ソマトーゼ、オイカジン等の頗る高價なる所謂滋養品を使用せむとするは大なる誤なり鷄卵にて十分なりと知るべし是等の諸製品は富あるものは試みて可なり其迷信すべからざるは既に牛乳其もの丶如し是等の多くは學問上の

分析の結果としては價だけの價なきものなり

貧者　强壯にして子多き事を記臆すべし彼等は牛乳を飲まず殆んど鷄卵を食せず煙草と酒はシカも下等品を用ゐ彼等の妻女は曾て婦人科醫の治療を受けずして彼等の生計費を許さざる底に多數の子を擧げ而して其產は平易、曾て產科醫を煩さず產婆にて旣に餘りあり加之產婆の命する日數は彼等床に就かず分娩の翌日旣に井戸端にあり嗚呼、富は體を弱くし誤解されたる衞生は柔弱の子孫を作るとこそ知られたり

富者は美食し貧者は食踈にして却て强健なり美食必らず効あるにあらざる事は明なるが福澤先生立志論「衞生の要は消化の如何にあり」を一讀せらるべし予の意と異なる所なし

獨逸の諺に「鹽とパンとが頰を紅くす」と紅頰とは健康の事にして食鹽とパンとさへあれば健康を保つに十分なりとの意にして我國に比すれば茶漬と澤庵とあらばよしといふに當る又美食の不必用を諭すなり

糠(ぬか)は塵埃の如く思はれつゝあるも滋養を含むものにして穀類中の最上等の部は糠の方に附隨して取去らるゝものなり西洋に於ては糠を以てパンを製す昨年の如き米作不良のときは之が應用を圖るべし

人間と牛とは大差あれども(中には餘り大差なき人間もあり、牛のツマラヌ草を喰ゐて彼の美麗にして滋養に富む肉を作り乳を出すを見ても興味あり力役に從事する人間の食物は澤庵と鹽引(鮭)なるに鑑みて亦面白し

○○○

ソップの如き頗る世の誤解せる所なり予は予の舊著「肺病養生法」中に左の如くいへり

肉羮汁(ソップ)は昔は醫者も素人も大に効ある如く稱したれども効なきものなり(ソップ)は只加里剤を含むを以て死に瀕するものに用て僅に心臟を激ます位の價値に止るものと知るべし何となれば肉羮汁(ソップ)一合は固形體僅に一匁あり而して是皆體質の分解を補れ又は體溫を醸すに必要なる

ものにあらずして只興奮劑となるのみなればなり故に主人の(ソップ)を喫し下男の(ソップ)糟を食するは主從互に食を轉倒せるものなり」

脂肪は洵に有益なるものなり殊に寒國の寒中には之を欠くべからずソップの中には脂肪あれども脂肪を目的とするならば高價なるソップを作るよりも安價なる豚肉を購ふべし

○衣類にてはシャツ、股引素より必用なきにあらず殊に紳士として人の前に出づるには手すら手袋を要し(多くは手袋其者を單に手に握り居れば足るとは雖)漫に皮膚、現はるゝを許さず去りながら靑年又は勞働者の目下の如く之を多く用ゆるは元來我國の風にあらず從前北海道の氣候は今日よりも遙に寒かりしなり而して吾人の祖父及び父は該地にあつてシャツ、股引を用ゐざりき先祖は强壯にして今のものは少しく瘦せたるもの殆んど皆肺病にあらずや當時の寒氣強きの例としては日本酒の氷結せし事屢なるを以て之を知るべし

外套も若し之を廢するを得ば此上なき善事なり往年北海道札幌公立病院に獨逸の名醫グリーム氏あり當時外套廢止會なるものあり氏の唱導に係る會員外套を用ひざるを以て則とす亦盛なりと謂つべし

襟卷亦然り之を常用するものは之を去るのとき即ち感冒す蓋し無用の長物なり

坪井博士其著生理學に曰へる意左の如し

襟卷はなくてもよし何となれば頸以下は衣服に包まれ衣服に包まれたる皮膚と衣服の間の空氣は體溫の爲めに溫められ絶へず襟の間に昇りつゝあり頸に布片を纏はずとも頸は十分に暖を保つ」

恐るべき疾病を恐るは素より當然なれども漫に恐れて而して足れりと爲すは頗る恐なり恐るべき疾病も一定の度までは之に抵抗して之を降服せしむるの決心なかるべからず

獻酬即ち酒杯の遣取の如きは其一なり漫に之を恐るべからず今日の肺病多きの理由の一として獻酬を擧ぐるは蓋し誤れり古の獻酬は今日よりも甚しかり

き而して未だ獸醫の害を證するものなし梅毒の如きも之に因て傳染すとせば古の花柳客は己れの口圍に皆下疳を有せざるべからず

接吻に因て肺結核は傳染さるゝものにあらずとはコルネット氏の說(氏の大著述一四四頁)なり氏曰く

第一唾液は通例、細菌を含有せず假に喀痰の殘物口圍又は髭に附着しありて他に傳達し得とせむ乎右は肺(健者の)には到らずして口唇、消化器或は附屬淋巴腺に到るが極點たるべし

肺結核患者の汗、あせ)の無害たる事は汎く學者の知る所なり

十二支腸虫は果して學者のいふ如く甚しき害あるや是亦疑はしきものあり蓋し本寄生虫の如き日本全國蛔虫の如く多からむ而して普通に書記すが如き大害は毎回是なき也本虫を以て脚氣の原因とせるが如き專門家あり尙ほ古、洋醫の滴蟲を以て淋病の原因とせるが如し漫りに病を恐るゝ人の心得べき事項とす

○○○○○○

副食物の類にて唐辛子の少量は胃を適度に刺戟して一の健胃劑たるべきも其多量は害あり即ち痔疾の人逆上の氣味の者は之を避くべし然るに朝鮮にては十歲以下の小兒既に毎日多量の唐辛子を用ふ大人の口にするもの丶如きは到底本邦人は之に堪ゆべくもあらず此慣用は彼の國に於て果して有害なるや否や彼の地の氣候又は腸內寄生蟲を避くる爲め或は必用なるものにはあらざる乎彼國人の疾病にして果して唐辛子に基因すべきものあらば素より之を禁止すべきも然らざる以上は其可否は研究の後定むべきなり之を寒中用ゐて身體の溫暖を覺ゆるは事實なり即ち防寒藥たり多量は消化器の刺戟を蒙る事甚しく或は胃癌の如き疾病を誘起すべき乎と予は思考す

北清地方も亦盛に唐辛子を喰ふ朝鮮の如く大量にはあらず

蒜(にんにく)は臭氣甚しきものなるが民間之を肺病の藥として用ゆるものあり俗說を採用して之を治療に用ゐしは故樫村博士なるが此の如き俗說悉皆排斥すべきにあらず蓋し肺病に多少の効あるは事實な

るが如し歐洲に於てもガリチエン地方（墺國の領土にしてハンガリーに接する所）に在ては民間之を食用し而して此地方に肺病頗る尠し朝鮮人も亦大に之を喰ふ而して同國人に肺病少し海軍々醫少監鈴木裕三君曾て朝鮮に關し報告せる所左の如し

「呼吸器病　中最も多きもの喉頭加答兒、氣管支加答兒、肋膜炎及び喘息とす、肺結核は甚だ少なく其小兒腺病の多きに比して寧ろ一奇觀といふべし、而かも肺ヂストーマは其數頗る多し」

西洋半可通は味噌を糞の如く思ひたれども越後人は三日之を喰はざれば痩せると云ひ醬油は健胃劑なりとベルッ恩師稱へ目下之を輸出するにあらずや

刺身は洋人之を喰はずといへども最も消化し易き食物にして之を腸チフス恢復期に用ひしむるはベルッ氏に始まれり鰯の頭も信心すれば効ありとかや

日本人入浴溫度は果して有害なるや否や吾人の浴する湯に西洋人入らば彼等は必らず火傷す彼等火傷するがゆへに吾人に害ありとせば江戸兒の朝湯に入るものは必らず其害を蒙りて夭死すべきなり然るに朝湯の客は主に禿頭の老人にして老て頭のはげるまで彼等は害を蒙らざりしなり實に慣習は第二の天性なり恐るゝに足らず

東北人の入浴中頭より湯をかぶる事の有害なるを說くもの醫海皆然り土着人にして智識あるものゝ言を聽くに溫泉ならはかぶらざるべからずといふ凡小桶二十杯を以て度とすと（五百、六百桶をかぶる者あり）かぶるときは十分間にして發汗す發汗すれば神身の爽快を覺ゆ酸湯（「すかゆ」と讀む青森市を距る六里）の如き此くせざれば口唇腫るゝを例とすと蓋し迷信にはあらざるが如し獨逸の諺に「コップ、カルト、フース、ワルム、マハト、アルット、アルム」（頭溫く足冷やければ醫をして貧ならしむ）溫頭冷脚は萬病豫防の効ありとの意にして實に然りといへども東北人には適さゝるなり只有害無害を定むるは醫たるもの卓上の臆說を以て斷すべからず宜しく實地の試驗を行ふて後始めて決すべきなり頭より叱り

附ぐるは宜しからず

人力車夫は心臟病に罹るや決して然らず凡、日本人の如く疾走し得るものは世界中他になきなり西洋人は人力車を曳き得ざるのみならず馬丁となりて馬の先に立つ事を得るもの一人もなし肉食するものよりも米食するもの却て此の如き業に於ては勝利を得、車夫の如き外面頗る健康を害す的にして未だ必らずしも車夫の夭死するを證するものなし

烟草に就いて予は予の舊著「肺病養生法」に左の如く言へり

「要するに烟草は就中我國の風習的なる雁首を以て用ゆるときは無害なるのみならず或は一得一失の原理より推し或は得の大にして失の小なるを信ず老人の大多數は喫烟者なるを以て之を證すべし烟草も酒も其害は其用ゆるの量にあるものにして、烟草、酒、其物に罪あるのみにあらず用ゆるの量を知らざるの人に罪あるなり諸君知らずや酒を好まざるの人死に瀕するのとき醫師は此人に葡萄酒又は「ブランデー」（日本酒も良し）を與へ人苦痛に病むとき其人に「モルヒネ」を與ふ「モルヒネ」は即ち阿片の成分にして臺灣に阿片を禁じながら一日も「モルヒネ」は醫治に之を缺くべからず是皆其用ゆる人の匙加減に存ずるなり嗚呼夫れ匙加減や是即ち有害無害の尺度なり」

不潔なる空氣を呼吸せる際シガレット一本を口にし口に溜るところの唾液を略出するは口中の不潔細菌を排除するの一法たる事明なりイタリアの學者の如き烟草の一定の細菌を殺す事を主張す平生口臭き人の如き之に因て單にゴマカスのみならず實に口臭の原因たる有機躰の之に因て或は撲滅せらるものと予は信ず右は予の舊說にして數年前印刷せるものに予の記せし事あり左記のものは普通新聞（明治三十六年）の記事なれども信ずべきものなり

『伊太利の科學者タッシナリは此程實驗に依りて烟草の殺菌力あることを證し喫烟虎列剌を豫防するに最良なる方法なりと論じたる由なり又同國の科學者ウイサリーは千八百八十九年同國にインフルエンザ流行したるとき烟草製造所の職工にして同病に罹りた

るもの一人もなしと云ひ又或る醫師は肺病を治療するに烟草の有効なることを盛んに主張し居ると云ふ」

酒に就ては諺にも

「酒は飲むべし醉ふべからず」醉はざれば飲むて差支なし其藥となると否とは其量にあるものにして醫書にも例之ば愛氏大内科書に氏は曰く（譯書八一八頁）

大量の亞爾箇保爾（「コンニヤック」及强葡萄酒等）を與ふべし是れ同時に胃中に嚥下せる略痰を防腐するの效あり

最近の東京醫事雜誌に墺國プラグ醫事週報（一九〇一年二六號）を譯して曰く要は酒精は結核の藥なりといふにあり

耶蘇も酒を直接に禁ぜず醉はざれば可とせり酒の利害も其量に在るの證據は醫師の己自から禁酒せしめたる患者に酒類を與ふる事あり赤色美麗なる水藥を貰受たれば是多くは赤酒と稱し用ゆるところの葡萄酒なり赤痢、コレラ其他危篤の患者に酒を與ふるの必用は毎常にして多くはブランデーの如き强きものを要す又藥方書中に丁幾なる文字多し是皆アルコール割なり丁幾はアルコール其者を用ゆるの意にはあらざれども又醫術に酒類の必用を證するより酒は節すべし全禁ずるに及ばず

試に酒を好む醫師に診を受けよ病は或は酒を禁ずべきも彼の曰く「少量なれば差支なし甘きものは胃を害するがゆゑに愼むべし」と同日他の下戸の醫を門を叩き見よ同患者同病に對し第二の醫は云はむ「酒は害あり若し命を惜まば酒を絶つべし菓子の少量豈害あるの理あらむや」と亦以て少量の酒の治療上ドーでもよきを知るに足らむ

何ても勇氣を皷する事大切にして衞生の目的は身躰を强壯と爲すに在り神身柔弱となるを以て衞生勵行の結果となるが如き愚を學ぶべからざるなり

多量に用ゆれば有害なるのみなるものも適度に用ゆれば無害なるのみならず有益にして有効なる藥品は殆んど皆劇毒藥なるを見ても明なり

世人動もすれば葡萄酒を以て長命酒と心得、重症に

罹て始めて之を飲用するの可否を醫に糺すものあり愚の極といはざるべからず予は舊著「肺病養生法に左の如くいへり」

「元來葡萄酒は西洋に在ては中等以上の家に於て來客の有無に關せず殆んど毎夕卓上に昇らざることなし故に敢て病者あるの故を以て葡萄酒を賞用するにあらず葡萄酒を以て長命酒なりと思考するは日本酒なき國即ち西洋の書物を直譯するものゝ誤見と云はざるべからず」

小兒に酒と煙草を禁ずるは予も同意する所なり然れども小兒に兩者を禁ずるがゆゑに其父兄又は教師たるものも亦之を禁ぜざるべからずと思考し心に安からざるに係はらず表面之を自身等も禁ぜるが如く裝ふは予の採らざる所なり予の考を以て視れば大人は公然兒童の前に宣言すべし

酒と煙草は利もなきにあらざるも其量を誤らば害あり小兒は兩者共に之を用ゆべからず予の如く大人となりたらば適度に之を用ゆべし只小兒の間は之を禁ずべし

恰も幼者は結婚すべからず幼者も大人となりたらば結婚すべしといふが如し

而し、兩者に對し困難なるは此「適度」の二字なり予は此適度を各自定むる事の難事ならざるを知る之を定むる事能はざるものは自から自信力なきを示すものにして自から愚物たるを證するものなり此二者を廢せむ爲めに態々宗教の力を借り來るが如きは最も自信力の薄弱なるを表示するものにして男兒、眞の心より此一又は兩者を禁ぜむとして豈、禁ずる能はざるの理あらむや決して他人の關渉を俟て後、始めて制止するを知らざるなり、此堅忍、不拔の精神を兒童の腦裏に發生せしむるやう「心」を養成せざるべからず是實に我國特有の「男」たるものゝ心にして世界に冠たるの性は茲に在るなり近來歐化の風を視るに多くは「男」をして婦女子的ならしむるの傾あり嘆ずべき事とす武士道たり大和魂たるものは此一種の強情不屈なる精神の裏に胚胎するものと予は思考

す」
世人動もすれば教育を先にし衛生を後にするの傾あり見誤れるの甚しきものなり試みに今學校に入らむとせよ入學願書に躰格證明書を添へざるべからず然らざれば學校に於て學術試驗に先ち躰格の檢査を受けざるべからず何れにしても躰格不良なれば學術の良しきに係はらず落第となり此事實に徴して誰か教育を先にし衛生を後にすといふ乎又本年大學を卒業して本年死するものあり
是前後誤解の結果にして子を持つもの其子、已れに先ちて死する事ともならば子を持たざるに如かず子を持つ以上は其子をして已れに先立つ事なきやう身躰の健康及び發育に注意し學の成るよりも健康を損せざらん事を務むべし我國古來の風として學校といへば文字を覺ゆる所と心得、一歩を誤らば健康を害する所たるに心附かず只、字數を無理に腦裏に收め米を喰ふ字引」を作るを以て本意とせるは誠に嘆はしき事なり是皆衛生を後にするに因る」

要は學問よりも身躰の大切なり而して身躰は寧、之を亂暴に使用するを以て強健となるものにして富者は須からく貧者の家庭に鑑むべく風か吹くヤレ襟巻、雪が降るソレ股引、シャツ、手袋、寢衣冷いソレ炬燵という有様にては到底白き遼東半島に露營するを得べき男兒を作るべからずといふに在り
諸子夫れ幸に蜻蛉は獅子に馴れたりといへとも天を仰げば鳶の飛ぶあり蜻蛉子夫れ自愛せよ　（完）

●衣服及び住居に就て

贊成員　關　普　重　郎

私は衣服及び住居に就いてと申しまする問題を揭げまして此の衣服の主用及び衣服の原料、衣服の色衣服の重襲、衣服と衣服との間に空氣、鳥獸の羽毛衣服中に含む濕氣、身躰各部の被服、夜具、衣服の清潔、衣服の交換、洋服と和服との併用の害あるよ其の外住地、家屋の方向、家屋の部屋割、日本の家屋等に就きまして最も必要の點を取り摘んで玆に會

員の姉妹に御照會致す積りて御坐います然しながら私の說きまする所は至つて新說ではありませんが又た大いに得るところもありましやうと考られます故に記述致しました次第で御座います先づ會員の姉妹よ最も古說の御積りて御覽を願います。さて健康でありまする人の體溫は赤道直下なる酷しき熱き地に住まいして居らるゝ人も南北極に近い烈しき寒さの地に居りまする人も皆な同じてありまして即ち之れを體溫器を以つて腋下に於いて測つて見まするに攝氏の體溫器で三十六度五分乃至は三十七度五分でありまず而して三十八度以上若しくは三十六度以下の體の溫度は常にはありません唯病體に見るのみで御坐います、斯くの如く常に同一の體溫を保たんと致しまするには必ずしも身體の表面から失ないまする所の溫を調節致さなければなりません、而して之れを調節致しまして常に平等の體溫を保ち得まするのは或る一部の皮膚の作用に依りますると云へますれども衣服の助けに依りますることは甚だ多いのであります

然れども衣服は全く體溫の散失を防ぎまするものてはありません啻之れを調節致しまするばかりて皮膚に直接致しまする空氣の層をして常に殆んど同一の溫度(體溫よりも稍々低き溫度)を保たせしむるの用をなすものであります其れてすから着物は身體に代つて寒さに直ちに接しましたり又たは冷却せらるゝ者であると申すべきてあります

凡べて衣服の原料は一部は之れを動物界より仰ぎましたり又た一部は之れを植物界より資るのであります而して其數は多くはありませんが麻、木綿、絹、毛、鞣皮、毛皮、等は其の主なるもので御坐います而しながら之れを利用致しまして殆んど如何なる氣候、如何なる天氣にも適應致しまする衣服を造ることができます且つ又衣服の色は太陽の熱のやうに放射致して來ます熱を吸收致しまする點に於いては大いに關係のあるものであります例へば暗色のものでありますると淡色のものよりも一倍以上の熱を吸收

致しまするが如きであります今ま試みに日の光の直射致しまするところに於きまして種々に着色致して居りまする布片を堆雪の上に併べて置きまするときは其の色の變ツて居りまするのに從ひまして雪の溶けるのに遲きと速きのありまするのを實驗致します又た夏日、日向に在りまするのに黒ろ色の着物を着まするときは最も堪へ難いと申しまするけれども日陰に於きましては白ろと黒ろの間だに格別の差のありませんのを見まするのは黒ろ色の物は放射熱を吸收致しまする力が殊とに強いのに由るてあります

衣服は二枚重襲致しましても之れに準じまして身躰の溫度の散失を二分の一に減せしむることはできません殊とに衣服の各層が相ひ密接致しまして其の間に空氣を含みませんときは躰溫の散失を防ぎまするの効力は少いと申します例へば薄い絹布一枚で溫を失ひまするのが一〇〇、〇でありますれば之れを二枚重ねまするときは溫の散失が九十七となります僅かに百分の三を減じまするのを見まするのみですフラネルは一枚のとき一〇〇、〇でありますれば之れを二枚重ねまするときは八十六となります溫の散失を減じまするることは百分の十四て御坐います普通の毛布は百分の十六乃至は二十六てあります、故に衣服を緊密に着まするときは躰溫を失ひまするることが多く却ツて寒さを感じまするので御座います洋服の普ねく身躰に密着致しまして殆んど寒さの風を入れまするの餘地はありませんけれども其の割合に寒さを覺いまするのは此理に由るからで御座います

之れに反對致しまして衣服の兩布片が相ひ密着致しませんで其の衣服と衣服との間に小さな空隙を存して空氣を含みまするときは其の躰溫を保ちまするところの力か大いに増加致しまするもので其の割合は各種の布片が皆な殆んど同じてありまして單層の際に散失致しまする溫の三分の一を減ずるものであります故に躰溫の散失は衣服の物質に關係致しまするよりも其の間に含んで居りまする空氣の分

量に關係致しまするこことは甚だ大いなることゝ知れます

綿は之れを織物と致して着まするよりも其の儘で織物の間に入れまして着まする方が其の容積が大いてありまして從ッて含氣量も大いてありまするから暖を覺ゆるが如きでありまする蒲團の如きも久しく之れを使いまするときは押しつけられますから温てはありませんと申しますれども之れを日光に曝しまして綿を膨大に致させますと其容積が增加致しまして含氣量が大となりまするから大いに暖を覺えますてす又た手袋の如き革製のものでありましたならば毛布製のものよりも冷かでありまするのは何人も御存じのとてありましやう。私は尙ほ衣服のことに就きましても記述致したいことは澤山御座います又た住居のことは今回は少しも申しませんが餘り長くなりまするから何れ次回の雜誌に掲載致すことにして今會は之れて止めて置きます

看護法

家庭看護法（つゞき）

醫學博士　三宅秀　君講演

佃速記事務所員速記

私は前回よりの續きでございまして、今日は飲食物を病人に食べさせることに就きまして、其食べさせ方だけを講じて、それて本年の講演を了りまする積りでございます、是まで既に飲食物の品物並に其調理法は種々申し述べて置きましたけれども、之を病人に食べさせますのには、瑣細なものと雖も、必ず醫者に相談を致して、斯う云ふものを遣りたいと思ふが、遣つても宜しいか、又分量はどの位遣つて宜いかと云ふことは、必ず醫者に問ひてその指圖に隨はなければなりませぬ筈でございます、それを素人考へて、此位なものは食べさせても宜からうと思つてからに、醫者の許しを得ずに與へますると、其

一口やつた物、或は一杯の水を與へたと云ふことから、大なる失策を來たしまして終には病人の命にも係ると云ふやうな過ちを生じますから、必ず醫者の指圖許諾を受けまして、醫者が命した通りに履行して往かなければなりませぬ、併しながら其醫者の命令に從つて食物を食べさせて居りますると、病人の方からは頻りに種々の物を欲しがります、斯う云ふものを食べて見たい、あゝ云ふものを食べて見たいと言つて、病人からは強請られますし、又醫者の方からは、さう云ふものを一切食べさせてはならぬと禁じられて居る、さうすると其間に入つて看病いたして居ります者が、ツマリ板挾になりますから、餘程困難な位置に立つことが度々ございます、此場合に於きましては、醫者の命に背く譯に往かず、然りとて病人が需める所を容れて遣りませぬければ、それも始終側に居つて看病いたして居りまする者の甚だ迷惑な譯でございますからして、茲が最も智惠、才覺、頓智などの要る場合でございます、醫者が惡いと言つた物は、病人が何と言つても、縱令病人に詫つても、其品は食べさせない、唯醫者の命令さへ固く守つて居れば宜いと云ふやうな、そんな智惠のないことでは、其困難の場合を通り拔けることは出來ませぬ、

ソコで病人にも種々ございますが、普通の病人は食物が厭になるのでございますから、是は誠に仕易うございます、食べたがらないのであるから、病人に強乞まれるやうなことがございませぬ故に仕宜いのてございます、唯病人が快復に向く時分に切りに食氣が進んで來る場合は、餘程骨が折れるだけでございます、さて病人が物を食べたがらないと云ふのは通例でありますが、少し精神の方に異狀がある病人に對する喰せ方である、今日は吳先生も御出でありますが、此精神病などは食物を疑つてからに、此中には毒があるから食べられないと言つたり、又は左程のことでありませぬことを、唯なんとなく食を嫌ふて、遂に餓死になるまでも食べないと言つて、強

情を張つて食べない、斯う云ふ病人でありますと、自宅療治の場合には餘程其始末が仕惡い、併し若し病院に這入つて居る病人ならば大に始末が宜い何故かと申せば、其同じ病室に入院して居りまする連の病人仲間から説諭をさせるのでございます、お前さんは食餌を爲ないさうですが、私も初はさうであつたけれども、食事を三度々々定り能く食したら追々快くなつたから、お前さんも思ひ直して食つた方が宜い、何でも院長さんの指圖に從はなければなりませぬ、と云ふやうな具合に、其仲間から勸めさせますると、食事を嫌ふ病人でも隨分食べるやうになります、然るに今日私がお話いたすのは、家庭看護法でございますから、さう云ふ譯には往きませぬ、我家にさう云ふ病人が出來ました時には、實に其説勸めるのに困ります、醫者も勸めるし、或は看護人も勸めますけれども、附添人の言ふことは一向用ゐて呉れない場合があります、殊に其家では看護者より目上の人であるとそうである若し自分が其家の嫁でどもありますと、其舅姑の地位に立つて居るやうな目上に當る病人が、食物を嫌つて、どうしても食べない場合には、其時分には幾ら泣付くやうにして勸めましても、我儘が病人の方にあるのと、其家の長者と云ふ所の權威がございますので、若い者の言ふ所を一向聞容れて呉ない、其時分には實に困ります、然らば困るから、瘋癲病人を取扱ふやうな具合に、腕力で押へ付けて置いて、食物を鼻から注込んで遣るなどと云ふ、手荒いことも出來ませぬ、是が若し瘋癲であると云ふと、鼻から食物を注込んで遣る方法もあり、或は穢ないお話でございますが、肛門の方から注込んで遣る方法もございます、種々ありますが、さう云ふのでなく、唯其家の長者であると云ふ所と、それと我儘心が増長して居つて、若い者の言ふことを用ゐて呉れないと云ふやうな時には、進退極まる、斯う云ふ場合には全たく智惠策略で以て宥め賺して食べさせるやうに致さなければならぬのでございます、ソコで病人が氣に入つて食べ

るやうにするには、毎度申し上げまする通りに、調理鹽梅に念を入れて病人の氣に入るやうに、心を用ひ食物の躰裁を飾らなければなりませぬ、兎角其食べて居りまする品物の臭ひの、或は藥の臭いとか或は腥いと云ふやうな、嫌はしい移り香などのあるものを持つて行きますと、病人は、それを口實にして直に退けて仕舞ひますから、其邊は能く〳〵注意しなければ往けませぬ、移り香などの無いやうに、能く器を清潔にして病人の前に持ち出さなければなりませぬ、若し病人の前に持つて行つた時分に、少しでも是は病人が何か故障を言ふと思つたら、病人の前て種々なことをしないで、默つて病室の外に持ち出して、能く味などを整へてから病人に勸めるやうに致す方が宜しうございます

それから食物の溫度であります、食物の溫度は餘り熱いものは宜しくない、殊に病人か子供も同樣に、側から養つて遣らなければならぬ場合があります、匙などで掬つて口中に入れて遣らなければならない場合には、不注意に熱い物を口へ送り込んでは、病人が復たそれを口實にして以後食べない策をいたしますから、子供に食物を與へると同じやうに、程宜い溫度を試みて遣らなければなりませぬ、所が子供であると、少し位冷えて生溫くなつて居りましても、默つて食べて仕舞ふものであるが、歲を取つて居ります病者は中々やかましい、是は冷えて居るから不味いとか何とか云ふ我儘を言ひますから、さう云ふことを言はれないやうに程好い溫度に前以て調へなければ往けませぬ、夫故に食物を溫める火鉢なり其外の道具と云ふものは、病室內に置くか、或は直ぐ手近に置いて、さうして手早く、それの冷えない間に病人に食べさせると云ふやうに致さなければなりませぬ、それから食事の時間でございますが、食事の時間と云ふものは、之も醫者に聞合せて置くのが宜しいのでございます、病人と云ふものは成べく少しづゝ、日に五回も六回も八回も九回もと云ふやうな具合に、少しづゝ切つて遣るのが法でござい

ますが、之も豫じめ醫者に聞いて置いて、其時刻を違へないやうにして遣りませぬとなりませぬ。時刻が少しでも後れますと、病人が食事をするのを急ぐやうになりますから、健康な人の食事よりも一層沈着いて徐かに食べさせなければなりませぬ、時刻が後れたからと言つて急にすると云ふやうなことは最も宜しくない、それから病人が食事をいたして居りまする間は、其給仕をして居る者が默つて附いて居りますと、矢張り病人が食事を急いでなりませぬから、餘り難かしい話でなく、極く有りふれた、病人の氣に障らないやうな、精神を使はないやうな話をして、緩りと食事をさせるのが宜しうございます、さう致しませぬとツイ病人が食事を急ぐやうなことになつて極く惡いのでございます、それから又食物を拵へる時分の分量である、此前お粥の時にもお話いたしましたが、お粥などと云ふものは一回の食事食し切れずして餘りますと誠に困るもので、成べく足りないと云ふ位に拵へる方が經濟にも宜い、併し食物に依りますと、食事の度毎に新たに拵へることの出來ないものがございます、例へばソップのやうなものは無論一日分位は、少くも拵へて置かなければなりませぬが、其他の食物は成るたけ一度に少しづゝ拵へるのが宜しい、食殘しがあるからモウ一遍熱めてやると云ふやうなことは宜しくない、何となれば汁物のやうなものなら、二度目に熱めて遣りますると、幾らか煮縮まりますから鹽梅が惡くなる、それから肉類のやうなものであると、最初燒きたての時には病人も旨しく食べますけれども、殘つて居ると言つてモウ一遍火に掛けますと、殆んど焦げるやうになつて、滋養分も無くなり、又固くもなり、さうして固いものは消化も惡うございますから、何でも其都度拵へて旨い中に食べ盡くさせるやうに致さなければなりませぬ、それから側から養つて遣りませぬければ自から食べることの出來ない病人になりますと、固い食物は一切往けませぬ、噛んで食べなければならないやうな固い物は宜しくありませ

ぬ、丁度匙で掬つて食べられる位な物でなければなりませぬ、それで又軟かい物でも、粥とか或は肉の叩いたものは、少し熱いと口内に粘牢て大層口中を火傷いたさせます、併し他の固い物であると左程火傷などは致しませぬが、兎に角唯今申し上げましたやうに、能く温度に氣を着けなければ往けませぬ、それから食物を嚙むことも出來ないやうに衰へて居る病人に、餘り大口に遣りますと、口の中で取り捌きをして飲込むまでが餘程困難でございますから、成べく大口に遣ると云ふことをしないで、少しづゝ氣長に食べさせるのが宜しうございます、又今一層病人が重くなりますると、今度は流動食餌になりますから、ソップとか牛乳とか云ふやうな流動躰にして遣らなければなりませぬ、是は匙で掬つて遣つては溢れますから、通例は吸飲で飲ませます、此吸飲で與へまする場合に、病人が丈夫で居りますれば程好く自分で吸へるだけづゝ吸込むから、それに任せて置けば宜しうございますが、口を上にして仰向きに臥て居りまする所へ、ソップなり牛乳なりを逆さに注込むやうなことをすると未だ飲込まぬ内に、後から／＼這入つて來る故、直ぐに噎せて咳などが出まして、弱つた病人が一層弱るやうなことになりますから、此場合には一層叮嚀に致さなければなりませぬ、若し病人が起き直ることが出來るならば起して置いて、さうして吸はせますれば噎せるなどと云ふことはございませぬ、若し又病人が夢中になつて居りまして、牛乳が來た、ソップが來たと言つて呼び起しても半夢中になつて居りまするやうな時には、最早や流し込むより外に仕方がありませぬ、其場合には少し流し込んで見て、さうして飲込んだか飲込まないかと云ふことを試して見る、それには少し注ぎ込んで置いてから、聊か首を横にして見る、若し口の中にあるならばダラ／＼と流れ出しますから、未だ飲込まないと云ふことが分ります、さうして如何しても飲込んで呉れない場合には仕方がない、普通の食物の遣方では往かない、さう云ふ場合になり

ますると普通は瀬戸物の吸飲を用ゐますけれども之を廢して水や藥を飲ませるのには硝子の管を用ゐますされども、此硝子の管は險呑なもので、病人が吾を忘れてガチリと嚙むことがあると、其破片が口中に迸入つて怪我をさするやうなことがございますから、若し管を用ゐなければならない場合には筆の鞘とか或は葭の管などを用ゐた方が餘程安全である、

(以下次號)



衛生雜話

醫學士　久保猪之吉

●皮膚の働き

前に色素即ち色の事を申しましたが、今日はも少し、皮膚の働き、皮膚は一躰ドーいふ働きをするものかといふ事を少し申しましやう。少しむつかしく申せば、皮膚の生理的作用といふ事です。

皮膚は身躰を包んでおく一ツの袋又は壁のやうなもので色々の働きを以て居るのです。今一々數へて見ますと、若し皮膚の一部分が破れて居るとすれば、血も出ましやう。わるいものも身躰の内に迸入りましやう。皮膚は身躰を衞る一種の保護器です、是が一つ。此袋の中には番兵が澤山並んで居て、あるものは、寒い暑いといふ事を感じ、あるものは物がサワッたか、サワラナイかといふ事を察する、あるものは痛い、痒いといふ事を知らせます、コノ樣な色々の番兵、即はち神經と申すものが散在して居る、感覺を司るといふのが二ツの役です。次に皆さん暑い時は汗が流れ、急に恥かしい時も所謂「慚汗背を濕す」と申すやうに汗が出ましやう。又鼻の先や頭の髮の根から等は脂が流れて出ます。即ち皮膚と申すのは、氷嚢の袋のやうなものでは無く皮膚の中から脂や汗を絞り出す事の出來るものです、是が三ツの役。次に又寒い日に肌を抜いてご覧なさい。所謂

「鳥肌」と申してブツ〳〵小さな粟粒のやうなものが皮膚一面高くなツて汗が出無くなります。ソーなると身躰の内の熱が容易に出なくなります。又炎天になれば之と反對で、皮膚は綾立つて、汗は流れ、出來る丈、熱の散ずるやう變ります。即ち皮膚といふものは、熱を出したり、出るのを拒いだりする大切な道具です。是が四ツ目の役。おしまひて皮膚といふものは肺と同じやうに呼吸をするものです。皆さん、ソー申してはお分りにくいかしれませんが、草木をご覧なさい、草木はあの緑色をしてをる葉で以て、空氣から、酸素をとり、空氣の中に酸素を放して居るのです。所が動物になりますと、呼吸をする道具が特別に出來て、肺臓と呼ぶのですが、皮の上て呼吸をする事が殘つて居るのです。最も肺て呼吸するのが主ですから、皮膚の方は呼吸が附たりです。是が第五番目の活き。

●五ツの働き

皮膚は此五ツの働き、即ち生理的作用を營むものですから、身躰の大切な部分です。若し此働きの内ドレが止ンでも病氣になります。又其働きが過ぎても病氣の基になります。即ち、出るものは出、這入るものは這入ツて、その平均を得て參らなければ、身躰の出入の都合、即ち新陳代謝の機關が亂れて病氣になります。通常、風邪と申して居るのも、此皮膚の働きが宜しきを得ない爲め、又は過度の働きを爲せた結果として來るものです。又皆さんが毎朝冷水浴を爲すッたり、夏休みになると、海水浴を爲すッたり、毎日お湯にお這入りになる事は此皮膚にドンナ影響を與へるものか、又ドーイフ功能があるものかといふ事をお話したいのです。それをお分りになるには、皮膚の働きを今少し委しくお話しゝて置くが順當だろうとおもひますから、今少しお聞き下さい。

●二枚の皮

皮膚は表皮と眞皮との二層から出來て居ます。ですから身躰の周圍を包んで居るのは二枚の皮です、表

皮の方は上皮細胞と申す、豆腐のから又は頭から落ちて來ます「フケ」のやうな薄い小さな片々のものが幾枚も重りあッて出來て居るのです。此中には神經が餘り來て居りませんから少しむけても痛くないのです、又血も出ません。しかし眞皮の方は柔かで血もあり神經もありますから、此所が切れると痛みもしますし、血も出ます。此二枚の皮が中々丈夫ですから、少し打たれても切れませんし、水に這入ッても解けません、又少し位弱い酸に逢ッても變らない。又表皮といふのは熱に感じ惡いから容易に熱を身躰の内に導ませんし、又身躰の内の熱を失ふ事もしません。又「エレキ」(電氣)に對しても不良導躰ですから、熱と電氣の害をも幾分か妨げるやうに出來て居るのです。

しかし、所々の大切な場所、假令て申せば腦髓を入れて置く頭の上や、感じの強い指先、又外傷を受けやすい手の平や、足の底のやうな所は薄い二枚の皮では不充分です。それで之を扶けてやる他の道具があります。神の細工といふものは餘程面白いではありませんか。

●頭の上

先づ頭の上をご覽なさい。元來皮の厚い所へ以て往つて、毛が澤山生えて居ります。その上文明の人は帽子を被ッて保護して居ります。頭の毛も單に飾りではありません、帽子も單に飾りではありません。そこには深い意味が籠ッてある。人間といふものは横着の動物ですから食欲が無ければ物を食べますまい。それと同しに頭髮や帽子も飾りにならなければ、やめて仕舞ふかもしれません、坊サンといふものは、頭の毛を削りおろして天然の意に背いて居りますが、矢張り保護が必用だと見えて、頭巾を被り帽子を被ッて居るではありませんか。又頭に禿のある人をご覽なさい。髮の毛を長く伸して、撫で付けて之を隠すか、又は帽子を被り、鬘を被て之を包みます。之は愧かしいから、飾りでかくすのでありましやうが神の心になッて見れば皮膚の保護器を扶けさせる

積てしやう。

●手の掌や足の裏

手の掌等は物を掘り物に觸れる場所ですから、うすければ、直ぐに損じて保護の役を全うしますまい。足の底もソーです。年中地を踏むものと定ッて居る、之も薄い皮ではいけません。皮を厚くしておきます足の裏等は表皮の厚さが二「ミリメートル」(約一分)もあります。ですから少し位固い、角張ッたものに止ッても皮を損ずるやうな事はありません。手の掌や足の裏の皮は必用に應じて幾らも厚くなるのです。假令ば道を遠く行きなれてをる人の足の裏の皮は厚く、百姓をして鍬鎌を取る職業となせば隨つて皮が象皮のやうに厚くなります。百姓の手の掌をご覽になッた方は御存知でしやう、手の掌に煙草の火を載せても熱いとも思ひません、之は必用に迫られて手の皮が厚くなッたのであります、又愧になれて愧を愧とも思はない人を「顔の皮が厚い」と申すのは此間の關係を通俗的に言ひ傳へたものです、之に反して用ゐ付けなければ、厚くなるべき皮も薄く弱くなります、手を使ひ付けぬ方が舟でも漕げは、豆が出來て、皮がむける、草鞋をはけば、血が出る――太平記をお讀みになッた方は後醍醐天皇が京都から笠置へ向かはせ玉ひし時、はきなれぬ草鞋、踏みなれぬ山路、棘の中に血が流れたといふ事の書いてあるのをご存知でしやう。

又足の裏や、手の掌には脂肪の枕がありますから急に物を打ッても、その痛みや、ヒビキを中の大切な道具へ傳へません。

又手や足の指先のやうに物にツキ當り安い所て、感じの強い所には、特別に爪といふ丈夫な硬い甲冑が附いて保護して居ます

●皮膚は一種の寒暖計

皆さんの御室には寒暖計がありましやう、若し寒暖計が低く下れば戸を立てゝ火を燃さねばなりますまい。又寒暖計が上れば戸を開けて風を入れなければなりません。しかし吾々の身体の皮膚には寒さ暖さ

を計る番兵がありますから、一々寒暖計をのぞかずとも、寒暖を知ッて衣服をぬぐなり着るなりする事が出來ます、若しも此身躰の寒暖計が破れて役に立たなくなれば我々は、腕が火の中へクベッて居るのも分らない、脊中に水が垂れるのも分らなくなるのです。皆さんお聞きになッた事がありましやうが、かの忌むべき癩病と申すのにかゝると、寒暖が分らなくなります。それて、冬の間炬燵などに這入り、片々の足が火の中に落ちて、焼けて居るのを知らない事があります、その臭のくさいので始めて、氣が付いたといふ例が、よくあります、實に氣味の悪い話してはありませんか。

●觸覺

觸覺と申しては、ムツカシイ様ですが。手の先て、物をさわッて固いか柔かいか、大きいか小さいか、粗々バイか、滑かゝを知るのが觸覺といふのです。眼の見えない人は此感じが非常に發達して、指さきて、字をさぐッて讀む事が出來るやうに發達して居る。盲唖學校へお出になれば分る。目て字を讀むがはりに字の凸くなッて居る、所謂凸字をサグッて讀で居ます。即ち五感の一ッで極めて大切なものであります。群書類從といふ大部の書物を作ッた塙保己一と申す人は盲目でありましたが、その妻君に向ひ中秋月見の夜、「花ならばさぐりて見むけふの月」と詠で泣いた話があります。さぐるといふ一字はよく觸覺の特に發達して居る所を示したものです。

●林醫學士よりの通信

左の通信は醫學士林春雄君の獨逸より本會幹事岡田徳子氏の許へ送られしものなりとて同夫人より本會へ寄送せられたるものなるが如何に獨逸にては飲酒の弊害を認め居るか如何に矯正策を厲行せんとしつつあるかは大に諸姉の参考ともなるべければ左に其全文を掲ぐ

大日本婦人衞生會に於ては

殿下を初め會員貴婦人令孃御一統益々御健勇の旨奉

賀候、扨て當獨逸國に於て酒類濫用の弊を認め之れを憂ふるの士尠からず然るに頃日普魯西國議會に於て「トーグラス」伯爵の建議に關るアルコール中毒豫防取締建議案は大多數にて上下兩院を通過し尚全國政府の上院に於て明言せる所によれば政府も夙に之の點に注意し既に左の如き取締法に着手し又は着手せんとしつゝありと云ふ、御承知の如く我國に於ても一二年前未成年者禁酒法案の提出等有之り右法案又は取締法の如き之れに對する論評は扨て置き只酒類のために國民に毒害を流すを認むるの識者多き一例として御參考迄に御通報申上候、尚小生閑を得候へば酒類有害なることを事實統計の上に表はし以て大日本貴婦人諸孃の御一考を仰かんと欲するものに御座候

●普魯亞士國上院に於ける政府委員の說明

第一　政府は各州知事に訓令し警察例により十六歳未滿者、泥醉者並に警察官より特に大酒家として指示せられたる人物に對し火酒の販賣を禁し尚場合により火酒小賣店及火酒店（我國居酒屋の如きもの）の營業時間を一定し早朝（例令は八時前）を販賣することを禁ずることをうべしとなしたり

第二　酒類濫用の害毒を通俗に記載せる書類を發行せしむること

第三　酒癖治療所（Heilaustalt）の效果成績の取調を命したり

第四　之れに反し交通頻繁の場所に酒類濫用の有害なるを示せる繪畫を揭ぐることは效力少なかるべしと決せり

第五　小學校生徒に酒類有害を教ゆべしとの訓令は既に發せられ且仝時に高等なる學校にも右訓令の發せられたることを通知し其主旨を明かし且其實行を希望せり、尚千九百二年（明治三十五年）試みに伯林の各高等學校に於て醫師をして一般衞生上の問題殊に酒類濫用の弊を講義せしめたり

第六　官業に使役する諸種の勞働者に對し飲酒の弊害を豫防するがために模範的取締法を設け既に大

に効果の見るべきものあれば民業に於ても勞働者に對し仝樣の設備をなすべきことを勸誘したり

第七　刑法改正の機に際したるとき充分に考案すべし

第八　飲食店の營業規定に關し營業令改正を施行すべきか否やに付ては未だ決定せざること

第九　特に飲酒に關する法令を發布すべしとの建議には政府は贊成せず

時事衛生



醫學士　久保猪之吉

●新綠

世の中は三日見ぬ間の櫻哉

といふ歌がありますが、實にソーです。雲か雪かと欺いた、上野の櫻が形なくちッて、葉櫻となりました。遠くから見て薄赤くなッて居ッた上野の森も青々となッて、忍ばずの蓮も葉を出し始めました。皆さん、木々の綠を御覽なさい。一雨ごとに青みは增し、葉が擴ります。誰やらが、「綠樹鵑聲雨を帶びて來る」と詠じたのは今の時節でありましやう。私は俗人群を爲し酒に醉ひ花に醉ひ混雜する日よりも此新綠の時が、尤も野外の散歩に適して居るものとおもひます。

●郊外一里

試みに都門を去る事北一里にして、郊外を御覽なさい。表は青々として穗波を打ち、告天子の來るを待つもの丶如く、昔し佛蘭西の一農夫が「ヘンリー」四世に、最も美しき花として言上したりし美談も思ひ起されます。又黃金色をして遠方に見ゆる一群の畠を御覽なさい。之は菜花十里と詩人の口に上る菜の畑ではありませんか。白い胡蝶も連想されます。又淸き細流をみれば兩岸、芹は摘むに宜しく櫻草、れんげ草又愛すべしてす。櫻の花や桃の花は散ッて後

形ないが郊外誠に清潔無垢、親しむべきものが多い。此自然を樂んで一日を消せば、壽自ら長き心地がいたします。况んや、今し頃は暑からず、寒からず、郊外往くに最も適して居ります。ですから皆さん、郊外の散策を御實行なさるゝやう願ひます。

●野遊び

天氣の好いのに芝居などに出かける方の氣が知れません。一日、汚ない空氣の中に這入ッて、飲食をして、身体の工合を惡くした上、オ金のかゝる事てすから、晴れ渡ッた天氣に子供を連れて靑々した野邊のけしきを見るのには比べになりますまい。子供の方には小さい籠を持たするもよいでしやう。女中にはオ辨當を下げさするもよいでしやう。そして行く〳〵摘草もいたしましやうし、オ話も致しましやう。時が來たならば、靑々した美しい自然の敷物の上に休むもよいてしやう。若し寫生でもなさる方であるならば、寫生帳を一冊持て參れば樂みは殊更に多いてしやう。其上櫻草や、蓮花草を摘みましたなら、家に歸ッて、オ友達に上げるのも樂みてしやう。又芹や、なづなが、籠に摘めたならば、それをオ料理するのも樂みてしやう。その上、美しき空氣を吸ッて運動した爲、夕飯がオイシクなる。コンナ高尚な遊びはありますまい。ソレに日本の人々、中にも女の方々は、野邊に行き歩いて遊ぶ等いふ事をオ嫌になり。外へ出かけるならば、直に車、遊ぶならば、芝居か、寄席といふ工合になさる方が多い。樂みは決して金をかけてから來ると申すものではない。元來日本の婦人の衣服が運動や、歩行に不自由てすから、車がオスキニなり、野邊の散歩がオ嫌になるのです。ですから、私は日本の婦人の衣服は少くとも運動服、言葉を換へて言へば平服に早く改良を加へるやうにいたし、ドンな方々も進みて御運動なり、御散歩なりなさるやうに致したいとおもひます。

●熱くならぬ内

三伏の炎天といふも近い事です。袷の時節ほど短かいものは無い。直ぐに單衣てす。單衣の節になりま

すと、旅行も散歩も熱くて樂みが少くなります。地方に參りますと、コレラやその他の流行病氣がありまして旅行もむつかしくなりますし、又散歩に出ましても汗が澤山出て、氷水やに寄ッてオ腹をコワすといふ風になりますから、旅行も散歩も樂みの多いのは今が一番です。

●朝起き

朝起きは長命の基であります。試みに八十とか九十とか長生きをする人の話を聞いて見ますと朝早く起きるといふ事ばかりは一致して居るやうです。稀に長生きする人の中に朝遲い人も無いてはありませんが。ソレは極々少ない話です。朝遲いのは何故わるいかと申しますに、一寸下宿屋などで學校へ行く人を考へてゴランなさい、五時になッても、六時になッても起き無い。七時になッても起きないので下宿やの女中が、學校の時間に遲くなりはせないかと思ッて、起してやる。それでも起きないで、トー〳〵學校の時間が近づいたといはれて急に床を出る…寄宿舍などに居る人は、八時の鐘のガラン〳〵と鳴るのを聞いて始めて起き上り十分の間の時間て、用意が出來るといッて得意になッて居るのもあります。成る程、八時少し前に起きても食事や、衣服を着けたりするのに間に合ふには違ひ無い。しかし、それを急な場合の稽古になる等辯護するのは大違ひです。顔も碌々洗はず、歯もソコ〳〵に磨いて、直ぐと膳に向ふといふ風てすから、身躰を拭く事も、髮を洗ふ事も出事ますまい。ましてや朝の散歩とか、朝の運動とかいふ事はおもひもよりません。食事をするにしても、急いて――食べるといふのですから、消化もわるくて、學校へ行く途中、横腹もいたむ、學校へ入ッても、眠氣がさすといふ工合てすから、身躰の丈夫になりッコはありません。從ッて仕事も勉强もおもふ樣に出來ず、身躰は弱り、仕事は溜るやうになります、誠に朝寢は禍の基です。

●朝起きの家憲

オとッさんが朝寢をすれば、子供もまねをする、妻

君がおそければ女中も起きて來ない。上に立ッものが、しッかりせなければ、イクラ下のものをせめても動きません。ですから家の長と成る人又は上に立つべき人々は、自分で進んで、朝起の習慣をつけ、ソーして子供や、下々のものに命令を下し、又奬勵をしなければなりません。ソーなッて來ると、ソレが一家の家憲となり、親も行ふ、子も行ふ、孫も行ふといふ工合に守られていくのです。私の知ッて居る順天堂の佐藤佐サンの家には一の家憲があッて、子々孫々必らず守るべき事になッてをるそうですが、その要領を申せば、朝は必らず日出前に起きて上る朝日に向ひ、兩手を後に廻し腰骨の上に宛てヽ、朝日の氣を吸ふ事廿回、それからして庭の掃除をする事、ソして小さい子供がたも學校へ行くやうな、年齢になれば必らず室の前の庭を掃く事になッて居るソーです。佐藤サンのいはるヽのに、庭を掃く事は必らず實行せられませんが、朝日に向ッて息を深く吸ふ事は一朝といへどもやめた事はありません。今から申せば所謂、深呼吸を營むといふ事で、自然今日の衛生に叶ッて居りました。ソノ爲めか同氏の家族がたはいづれも八十歳、九十歳の高齢を保たれたソーです。誠に朝早くおき無ければ朝日の昇る所は拜まれず、所謂新鮮なる朝陽の氣を吸ふ事は出來ません。朝日を吸ふといふ事は誠に巧みな、面白い家憲です。かヽる家憲を子孫に遺し、子孫も之を失ふ事無くして守るといふは、誠に羨むべき家風で、西郷南洲翁が「吾家遺法人知否、爲兒孫不買美田」と申した意氣も忍ばれます。ナント皆さん、吾々も此立派な家憲を吾々の家に實行させるやうに勤めやうではありませんか。

●朝の呼吸

昔から朝陽の氣を吸ふと長壽をするといふ事を申しましたが、之を今の詞で申せば朝の間は空氣が新鮮で、サッパリして居る。塵も少い。ですから之を呼吸するのは、身體の爲によいのは明かである。又息を深くするといふのは所謂深呼吸で肺の弱い人々に

は格別功能がある。即ち、普通の弱い呼吸では、肺の奥の小さな部分迄は廣まらない。又空氣が這入り兼ねる、それに強く呼吸をする時は肺が充分開いて、空氣が深く這入ッて血腋の中に酸素が澤山這入り又炭酸の出方が活潑になるのです。又朝早く起きれば、運動する時間もあり、朝食も顔洗も、ユックリ出來る譯ですから色々の點で身体の爲めになるのです。しかし此深呼吸といふ事で注意すべきのは、身体の元來弱い、風邪を引きやすい人が、冬の寒い朝、露天て、ツメタイ風を吸ふといふ事です。それは却て肺をいためたり風邪を引いたりする事があります。てすから、深呼吸をはじめるのは、暑からず、寒からずといふ今が一番よいのです。若し、身体の弱い方が、冬の間オやりになるといふのであれば、戸を立てゝ、室の内でおやりになるのもよろしい。是は肺の体操ですから、女の方々は、ぜひ毎朝オやりになるやうに願ひます。

●朝逍遥

朝の散歩です、或は新鮮の空氣中で運動するのもよろしいです。先ツ散歩の事をオ話しいたしましやう。前に申した、新緑の滴たらむとする間を、身装軽うして、さまよふは此上も無い愉快です。此愉快は朝寝の人は夢にも分らない所です。凡て運動や散歩といふものは根氣ツヨク毎日毎日行ふ事が出來なくてはさほど功用の無いものです。勉強も同じ事です、試驗前の俄勉強は後でサホド役に立つものでは無い。朝散歩するならば毎朝する、運動するならば毎朝やるといふ風にすれば、弱い人でもキット丈夫になる、弱くなられやう筈は無いのです。私は弱い人がたゆまず、倦まず運動し、衛生の道を守つて丈夫になッた例を澤山知ッて居ます。今試みに老人の御存知の方々を比べてゴ覧なさい。幼い時に運動養生の事に注意した人は老身となッても弱りかたが少い。腰も中々曲らない。其色澤も違ひます。吾々の始終耳にして居ッて不思議に堪へないのは、若い時弱かッた人々が、長生をして、昔強かッた人々より

も後に殘ッて居るのが多い事です。ソレはよく考へれば不思議が無い、强い人は强いに任せて不養生を爲し、爲理をいたします。しかるに弱いと自身で覺ッた人は身を愼ンで亂暴の事をしない。又養生の道を勸める、ですから却ッて反對の現象を見る事があるのです。長生をして黄白の爲めに澤山の仕事をしやうとおもはるゝ方は昔の老人が我々に示して下さる手本に依ッて氣を付けなければなりますまい。



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは發載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なし●本號の雜誌に發載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

●特別注意

本欄は固より普通衛生上の注意のみ應答の筈なりしに會員方の中には治療法を頻りに御質問になりますが病氣の中で何にが尤も難事かと申せば診斷より困難なるものはないのです然るに御質問の多くは「私は何病に罹り斯樣の經過なれば善き治療法教示せよ」との難題を申込まるゝもの其大半を占め居る次第ですが病氣と申すものは大家とも云はるゝ國手が實地診察致しても一回位の診察では尚ほ何病なるかの分らぬものも多くある位ですから素人の不完全な手紙位にて迚も病症の分る筈のものでない况んや治療法など御教へ申すことは實に危險千萬な事です

例令へは會員方の何病と申し越さるゝは何れ主治醫の說であると假定しましても其主治醫が果して間違へなく診斷をなし居るものか否かは疑ひなしと申されません然るに若し間違へる診斷に對し其治療法等を御敎示致しました處で既に其根本が誤つて居る事とすれば如何に名療法を御教示しても

何にもならぬ事で却て害を及ほすものでありますサレバ今後は治療上の事は一切答解を止め普通衛生上の注意のみ答解すべく又是迄隨分甚だしき御質問も見まして兒女の前にては讀み難しとの御批難も大分出でましたから今後は是等にも大に注意する考ですら其御積りで御質問あらん事を望み升

●今回限り差支なきものゝ外從前の通りに答解致し置候

質問者　東京　會員の一女子

▲問　二十歳の女昨年海外にてヒステリーをうれ忽歸京後八月頃より顏に腫物生じ十二月頃に至り皮膚病專門の醫師に診察をこひ其藥にて根治いたし候へとも何分其あと黒くのこりをりて誠にみにくゝこまり居候何か早くあとのきえる藥はこれなく候や

●答　腫物の跡が深いと皮膚の中に熱を持ちますから癒りし後にも暫く色素の沈着を起します（病の爲に）之は自然に時を立つと去る事もあるし時によると治療の前にいろ〳〵の石鹸などの爲めに刺戟されて居りますと永く色素の沈着を殘すのです若し容易に癒りそうもなかつたならば百倍のザルチルサンアルコールを一日一度位つゝ塗り居るならば早く治癒致しますツマリ之は永い間には癒らぬ事はないのです

質問者　本所　一會員

私の妹當年十五歳に相成候處三四年前脇の下當り丸く白く相成俗に云ふ（なまづ）の樣に相成漸々に胸其他所々へ殖へ候有樣故專門家に永く治療頼候處一ツ全快致せば三ツ殖へる有樣にて迚も全治の見込なくもはや顏半面白く相成候故此程或專門家の方に診察を頼候處身体の色素が漸次消滅致すの故治療出來ぬと申され候併し萬一治療法是あり候へば御教示被下度且又顏丈けでも他の色と同じ樣に見へ得る樣何か塗り藥御座候へは御教へ下され度候

●答　是れは難治の症ですけれども決して不治の者

ではない現に之と同樣の人の癒りしためしがありますされども專門家が治療して早く癒るものと中々癒らぬものとあります顔の色を一ツ色に仕樣と思召さば十倍の「イヒチオール、アルコール」の塗布をしましたならば多少目立たゝなくなるだろうと思ひます

質問者　臺灣　山崎某子

▲問　知人に昨年八月中小豆位の一點の白なまづの如きもの左頰に出來爾來段々廣がり是迄種々治療を加へ倘注射を致し候へとも今以て全癒せす尤も疼痛は毫も無し甚だ見苦しき有樣何とか治療法無之ものや伺候

此者は三十八歲の男子此の如き白病は土人には往々有之之を以て髯剃より傳染せしやも難計と申し居候云々

●答　之に對する答解は前のものと異なることなし專門家の治療して治るものは治るも又癒らざるものもあり但し之は傳染性のものでなく性質は全く違ひまして所謂色素の委縮病であります

▲第二問　生れ質の女子右腹に茶色の「アザ」の如きもの出來成長に隨ひ次第に大となる該治療の方法御伺申上候

●答　其「アザ」が小さければ電氣分析法を施すか若くは大きければ切除するをよしとす放置しおけば漸々増大する事もあり又然らさることもあります

質問者　長野　一會員

▲問　廿五歲男七八年前より足裏土ふまずの上部へあかぎれの如き物出來横線に六七分の大口があき其口より出血し段々上方へ切進し苦痛にたへず是れは年々干田に水をつける俗に五月前後に始まり其年十二月頃に至りて全く癒す他人の言に依れば田虫とか云ふにより其道の藥を用ひたれとも更に其功を見ず誠に困難致します故療法御教授を乞ふ

●答　此症はイクチエマ即龜裂症でしやう其龜裂の口より惡しき毒が入ッても危險であり且出血の痛

みもあるべければ硼酸軟膏（五プロセント）を布に延して貼用して試みらるべし尚醫師に就きて「ペプラ氏」の軟膏を貼用の事を相談せらるべし

質問者　北海道　一會員

▲問　私事生れ付き頭髪チヾレ甚だしく諸人の敎示も數多有之又函館の醫師に乞ひ處法劇藥を塗布し居る間は直り居り候も廢止するときは又々以前の如く「チヾレ」來る始末矯正法御敎示願上候

●答　毛の「チヾレ」るのは毛根の病氣にて畢竟毛根の營養不良に基くものなればよく强壯療法を施こさるべし最近某專門博士の發見によれば「ピエドラ」と云ふ虫が毛に付く爲めに「チヾレ」る事多しといふ之れは皮膚の寄生虫によるものなれば尚よく專門の醫師と相談せらるべし

質問者　臺灣　一教員

▲問　本年廿七歳の男子にして元來痔病の處少しく勞働するか又は心配するときは疼痛を起し出血せるもの有之甚だ難澁の模樣に候右治療法を問ふ

●答　痔病のある人は勞働するは宜しからず要するに姑息の治療をなし置くときは益々烈しくなるのみなれば宜しく專門の醫師に就き外科的の療法を受くるより外なかるべし

質問者　佐賀　一會員

▲問　惡性貧血とは如何なるものにや又理由養生法御敎示下されたし

●答　醫學上惡性貧血と申す名稱はありませんが「カヘキシ」と云ふ意味なれば癌とか結核とかに多し多分重症貧血の意味でしやう之は各原因を殊にしますから病源に從ッて治療しなければならぬのでありますから一々說明は出來ません（齒みかき粉と入齒の事は次號に申上升）

質問者　愛知　一會員

▲問　飲料に供する堀井の井戸側には木材瓶、叩、土、如何なる材料を用ふれば完全に候や

●答　井戸側には汚水の浸入せざるものを撰ふのが必要です多くは木材を用られども木材も腐るときは汚水の浸入する恐れあり叩土の如き其尤も下等なるものなり尤も安全なるものは陶器製の井戸側を用ゐるが安全であり升

▲第二問　肺病癩病患者等の觸れたる住屋器具の消毒にフォルマリン燈を用ひ二時間の消毒にて安心出來申候や御示敎相願候

●答　此消毒は住屋の廣狹器具及フォルマリン燈の大小にもよることにて又密閉の度にも關係あるもの故に消毒の場合には六疊敷位の室なればよく密閉して燃了後五時間以上消毒すれば可なり詳細なることは材料もあれば次號に揭ぐることゝなしぬ

質問者　廣島　一會員

▲問　宅の飲料水は平日濁り居り水桶に入れ四五時間も致せば赤き茶色の沈澱物を生じ水さし鉄瓶の底も毎度右樣の物附着致し候が斯樣なれは身躰に害なきや若し害あるなれば簡單の淸淨法御敎示被下度候

●答　御宅の井水は鑛物質の融解せるものゝ如く土地により鹽分を含むもあり石灰質を含むもあり複雜なるものをも含むもありますから其有害や否やは分析せざれば明言は出來ませんが要するに濾過するが尤も安全でありますす濾過法はいろ〳〵方法もありますが普通砂ごし下部に木炭其上に小石塊其上に砂の三層を作り時々よく洗滌して用ゐらるべし

質問者　大分　愛讀生

▲問　ソマトーゼは肥滿の功有之候や滋養食料として用ふる價値有之候や否や

●答　ソマトーゼに就ては本會雜誌第百三十六號に於て隈川博士の詳細なる演說によりて知らるべし今大畧を記さんに分析の結果其養價は蛋白質量に於て牛乳の三分の一以下牛肉の七分の一鷄卵の約六分の一又張力に於て牛乳の十七分一牛肉の十

六分の一鷄印の十八分の一なり右の如くソマトーゼの養價は牛乳牛肉鷄卵等の養價に及ばざる遠し殊に少しく多量に用ゐれば消化機を害し下痢を起すが故に一種特別なる滋養品にあらさること明かなるのみならず自然の滋養品を食し得る患者がソマトーゼを用うるは毫も其理由なし云々詳細は博士の論説を見られよ

質問者　九州　の一會員

▲問　冷水摩擦を奬勵致し候處リヤウマチスの痛み生じ冷水摩擦を止むればリヤウマチスの痛みも止むよき方法なきや

●答　リヤウマチスには海水浴冷水浴等は適當致しません却つて海水溫浴が効能がありますからリヤウマチスの起る方には冷水摩擦等は斷然止めて反對に溫浴を取らるゝことを御勸め申します

中外彙報

●脚氣と米　榊博士の脚氣の病因は米にありとの說は嘗て本誌に載せましたが此頃又榊、山極兩博士山口學士は此頃又々有毒米の研究に從事されて再三試驗の結果脚氣病の原因は白米の毒分によることを認めたと申すことです脚氣の氣味の御方は今より麥飯を上つて御用心〳〵

●夏期の衞生　警視廳栗本第三部長は夏期衞生上は下痢症の發生には余程注意しなければならぬ今よりは病性を變ずる時期となりますから何時コレラの發生するかも計り難しと

●又實布垤里亞、猩紅熱等は夏の初めに流行するものゆへ幼稚園小學校の生徒は尤も罹り易けれは父兄の方に於て充分の注意あるべしと

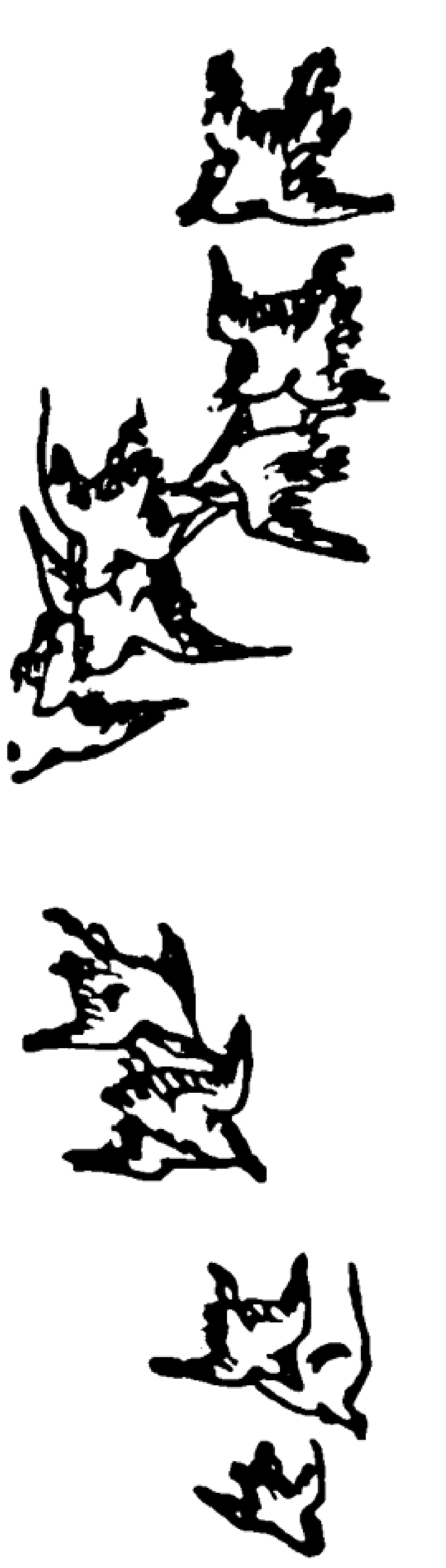
●横濱に又々ペスト發生しまして大騷ぎですが栗本部長の話しに鼠は冬期よりは夏期に多く兒を生むものゆへ此際鼠一頭を捕へれば冬期に二頭を捕ふる程の効力があると申すことです鼠狩かな〳〵

●デングー病と結膜炎　此頃デングーと云へる病氣流行する由ですがこれは二三年前香港シンガポール

上海及シャトルに流行した事もあるそうです其病症はインフルエンザと麻疹を折衷したもの丶如く死亡者は至ッて少しとの事ですが傳染性ですから御用心が緊要です又結膜炎の流行は宮城、栃木、富山、新潟、福島、岩手、千葉、香川の八縣に多く香川縣の如き小學校生徒中には万を以て數ふる位にて其媒介は便所の手洗ひ水又は手拭等にて浴場なとも又傳播の媒介となることとありと

●牛躰の結核と人躰との關係　コッホ氏一とたび牛躰の結核は人身に害なきものと稱道せし以來吾れ人の大に惑ふ所なりしが近時コッホ氏の高弟にて「ジフテリヤ」血清療法の發明者たるベーリング氏は牛躰の結核は人躰の結核と同種なるとを說明して極めて危險なることを言ひ殊に初生兒の胃腸は薄弱にして病毒を感受し易きが故に多くは牛乳牛酪の如きは最も消毒に注意すべきとを主張せりと某博士は語られたり

●白粉禁止問題　報知新聞に白鉛禁止問題の出てましてから贊成反對いろ〳〵ですが勿論鉛毒のある白粉は衞生上有害ですから全然禁止するがよい併し白鉛を塗るは虛飾心より起ると論する人美術的と說く人何れも理論を鬭はし居れるがいと面白き問題なれば皆樣御研究になつては如何



大日本婦人衞生會記事

●本會五月總會及懇親會景况

五月二日第一土曜日小石川砲兵工廠内後樂園に於て總會を兼ね懇親會を開きぬ前夜は空模樣惡しかりしかば會日の天候如何あらんかと氣遣ひしも明くれば一天名殘りなく打ち晴れたるぞ幸ひなる役員及事務所員は早朝より其準備に忙はしく午後一時よりは會

員引きもきらず參會せしが本園は水戸烈公の意匠を凝らし明の遺臣朱舜水を顧問として築造せられしものなれば其閑雅幽邃なること普通庭園の比にあらず入口に唐門あり古雅にして懸るに舜水の扁額を以てす此門を入れば寝覺の瀧、白雲台、木曾山、棕櫚山等の名所あり清流其間を流れ羊腸たる岡陵を進み行けば左側に蜈蚣山あり坂路を下れば地面平坦にして左に大池あり蓬莱ノ島は其前に横はり樹木蓊鬱として宛然島臺の如く鶴の舞ひ龜の汀に遊ふかと疑はる傍らに白糸の瀑布あり玲瓏日光に映じて白練を曝らすか如く池邊の樹木は新綠を湛へて清爽言はん方なし數歩にして石橋あり左方に駐歩泉碑（水戸烈公筆）西行堂あり西行の像は元と此處に安置しありしも今は本館に所藏すといふ其傍らに柳かげの碑あり水戸烈公與方の筆にかゝる

道のべに新みづ流るゝ柳かげ
しばしとてこそ立とまりつれ

其裏らに佐藤逸齋の 記文あり是れより 十數歩右に石橋を渡れば橋畔に一松樹あり鬱々枝を垂れて翠色溢るゝか如く是れぞ唐崎の松に擬せるもの、是れより櫻の馬場に達す之を右にして進めば正面に涵德亭あり西隅に四方硝子の一室あり當時硝子なき時代の珍室なりといふ館側に大堰川、渡月橋西湖堤あり大堰川は三代將軍山城大堰川の勝を寫し神田上水を引きて山河の形勢を爲さしめ愛遊せられし處とて今尙手巾掛松、腰かけ石を存す渡月橋、西湖堤は舜水の考案なりといふ是より峻はしき坂路を登り行けば琉球山あり有名の刈り込は人をして一望嘆賞せしむ尙登ること數歩にして清水觀音に達す此地は開府前既に觀音堂のありし舊地と傳ふ其堂宇は西京清水堂を模造したるものなり朱欄の塗り換へ新に成りて麗はしく是より羊腸たる坂路を下れば通天橋あり弓形の朱欄は深さ丈餘の溪流に架して日光の神橋かと疑はる之を過ぐれば得仁堂あり伯夷叔齊を安置す烈公其德行を敬慕せしによるといふ數歩にして二路に分る右は櫻の馬場左は八卦堂道とす左路を行けは又二

路に分る丘陵起伏の間道路數岐に分れ右に接し左に應じ其屈曲幾回なるを知らず左方に萱門あり元と水車のありし地なりと傳ふ尚進む數十歩にして圓月橋に達す石造の所謂眼鏡橋なり傾斜頗る急にして容易く攀ぢ登るべからず是又舜水の意匠に係る將軍之を愛し後ち吹上の園內に築造せんと欲し良工を撰て起工せしも遂に成効せざりしといふ漸くにして之を渡り尙丘陵を登れば頂上に八卦堂あり文昌星を安置す光圀八歲の時初めて登營將軍に拜謁し大奧陳列する處の各種に就き其好む處を撰はしめしが光圀文昌星の銅像を取る將軍感賞此兒將來必らず文字に達すべしと果して後年大日本史編纂の偉業ありしは人の能く知る處なり是より坂路を下れば平坦なる柴原に出づ藤棚は此處彼處に懸りて未だ見頃とは行かざりしもはや色付きていと愛らしく梅林に一亭あり玆に一憩して九八家に至る玆は著名の茶亭にして其の前面は土地平坦兒女の遊戯に適し右には菖蒲杜鵑花數圃あり左の池邊には丁々たる松林あり何れか名所を損せしものならん道を左に取れは鷹の碑に至り右に取れば蓬萊島白糸の瀧に達し櫻の馬場に通ず是れ僅かに庭園を一周せるに止まりて其詳細なることは禿兎のよく盡す處にあらざるなり

今や筆を轉じて當日の景況を畧記せんに櫻の馬場には粟餅屋の曲搗あり餅屋の小婢は巧みに客を呼び九八家には役員及令孃逹の茶菓を勸むるあり涵遊亭の廣場には蓄音器頻りに演奏を初む會員の三々五々相連れ立ちて逍遙せらるゝ有樣は恰も天國の樂鄕に遊ふか如く滿園花既に過ぐるも春の花の一時に咲初めし風情にて愛らしき兒女の池邊に袖振りあへるは胡蝶の花に戯むるゝか如く豫想外の出席者なりしかば餅屋も菓屋も接待所も大繁昌にて四時頃には何れも品切れを斷ふる程なりき

午後二時に至り總裁　東伏見宮妃殿下にも御臨場あらせられ少時御休憩の上濱尾副會長には會長旅行中の爲め代りて御先導申上幹事隨從園內を御運動あらせられ九八家に御小憩夫れより會場へ成らせられ

たり一同席定まるや事務會計役員改撰等の事を報じ夫より蓄音器數回の演奏あり當日は觀世流の謠曲家田村某の來り合せしかば櫻川の一節を蓄音器に謠ひ込み直ちに之を會衆に聞入れしは愉快殊に多かりしを覺ゆ續いて松林知鏡、松林伯知の講談あり巧みに喜怒哀樂の狀をうつし大に歡を惹けるか如し右終り役員改撰の結果を報じやがて散會を告げしが總裁殿下にも御機嫌麗はしく御歸館あらせられ會員一同も續いて歸途に就かれしは早や五時頃なりき當日の來賓には博士學士廿餘名會員及同伴者等總計五百四十九人にして近來になき盛會なりき

當日役員改撰の結果左の如し

會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　濱尾作子
（以下姓名イロハ順）
幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穗子
仝　松平芳子
仝　三浦敎子
評議員　伊集院しけ子
評議員　石川貞子
仝　濱田捨子
仝　仁禮壽賀子
仝　西升子
仝　穗積歌子
仝　緒方悅子
仝　岡山とし子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山龜子
仝　子爵夫人　田中いよ子
仝　丹波貞子
仝　高橋孝子
仝　田村きよ子
仝　相馬陸子
仝　男爵夫人　南部隈子
仝　中濱芳子
仝　伯爵夫人　松平充子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　子爵夫人　松平久子
仝　馬渡玉子
仝　岸澄子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下咲子

●總會及懇親會への寄附金（イロハ順）

一金五圓　濱尾作子
一金貳圓　鳩山春子
一金貳圓　羽田三緒子
一金貳圓　岡田德子
一金貳圓　高木かう子

一金貳圓　山本多穗子
一金貳圓　松平芳子
一金貳圓　丹波貞子
一金貳圓　中濱芳子
一金貳圓　宮下咲子
一金貳圓　大澤作子
一金五拾錢　子爵夫人松前藤子
右は御欠席なりしも會費として送り越されしかは夫人の承諾を得て寄附金に編入す

大日本婦人衛生會

收支決算報告（自明治三十五年三月 至仝三十六年三月）

一金四千百貳拾貳圓九拾錢八厘　收入
內譯
金六百七拾參圓六錢五厘　前年度ヨリ越高
金參千貳百參拾五圓四拾八錢五厘　會費
金百貳拾八圓貳拾壹錢　寄付及祝儀 會誌廣告料
金八拾六圓拾四錢八厘　預ケ金利子

一金貳千六百七拾八圓八拾八錢　支出
內譯
金五百參拾八圓六拾四錢　報酬及雜給
金四圓七拾七錢　器具費
金千五百貳拾八圓五拾錢七厘　印刷費
金貳拾壹圓九拾七錢　筆墨紙費
金九圓八拾九錢　消耗費
金百六拾參圓五拾四錢參厘　通信費
金貳百四拾七圓貳拾八錢　集會費
金百五拾九圓貳拾八錢　雜費
金五圓　旅費

一金千四百四拾四圓貳錢八厘　收入差引
內譯
金千貳百圓　三井銀行預金
金百四拾參圓九錢參厘　東京貯蓄銀行預金
金百圓九拾參錢五厘　手元有高
以上

現在會員數調（明治三十六年四月現在）

東京終身會員四拾八人　特別會員　百六拾八人
特別贊成員　百拾壹人　通常會員六百五拾四人
通常贊成員　拾貳人
地方贊成員　五拾壹人　終身會員　拾四人
特別會員　貳拾參人　通常會員五百四拾八人
新潟支會　貳百拾參人　千葉支會　拾七人
山形支會　八拾壹人　宇都宮支會　百〇貳人
茨城支會　百貳拾八人　高崎支會　百七拾八人
會員總數貳千參百四拾九人

茨城支會

●四月例會　四月十九日午前九時より茨城縣立高等女學校內の一部に於て開く（爾後會場は同所）左の講演あり出席七十餘名午後三時閉會を告けしと

第一　子と母との關係（米國リンコルンの話）　田口師範學校教諭・
第二　日本婦人の地位に就て　長野新聞社主事　茅野廉太郎君

第三　創傷出血の手當　　波多野濟生病院長

山縣支會

●四月例會　四月十一日第二土曜日午後一時より山形女子師範學校に開く會員及學生の來會者凡百五十名戸外運動（ロンテニス）及左の講話ありて午後四時閉會せりと

救急療法に就て　　吉村春柳君
小兒の衛生に就て　　北島小太郎君

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

高崎支會總會

●四月十九日（第三日曜）高崎支會の總會を同市宮元町高等小學校内に開く會場には總裁宮殿下の御寫眞と令旨とを恭しく捧置す午前九時開會す其次第左の如し

開會の辭
唱歌（君か代）
「オルガン」
令旨捧讀
庶務報告
會計報告
祝辭
謝辭并に講話
唱歌（金剛石）
「オルガン」

副會長　星野きよ子
一　同
幹事　三橋ひろ子
支會長　井口德子代
幹事　齋藤れう子
幹事　土谷ひやく子
幹事　林磐智子
特別賛成員　尾野篠光君
特別賛成員　横井忠岡君
一　同
幹事　三橋ひろ子

次て役員一同の外に相澤小松子、山越千代子、田部井巳之八君立會の上撰擧役員の投票を開く其結果は別項の如し右終て高崎衛戍病院を參觀す役員は支會を代表して同入院患者を慰問せり此間一同は庭園に於て休憩す構内の一重櫻と桃は大半落花して芝生の上、躑躅、霧島、菫、蒲公英の間に散り敷き恰も色彩せる絨氈に似たり八重櫻と海棠は今を盛りと咲き匂ひ柳の新緑と相和し滿庭歡迎の笑を湛ゆるか如くなるを以て會衆は恍として春光に醉ふの心地せられてイト樂しかりき殊に該病院職員各位の懇篤なる說明と十分の便宜と温情とを以て好遇せられたるは最も感謝する所なり又會員交互は雪とまかひて散る花に遊へる蝶と戯れて彼方此方に逍遙し時の移るを覺へざりしが四時の鐘に促かされイザとて散會し茲に目出度總會を了る

●役員投票の結果左の如し（點數略）

支會長　井口德子
副會長　星野きよ子
幹事　土谷ひやく子
仝　横井昇子

幹事　相川すが子
仝　三橋ひろ子
仝　齋藤れう子
仝　高草木かね子
評議員　林磨智子
仝　松本泰子
仝　馬渡なか子
仝　清水かね子
仝　栗野まる子
仝　伊藤芳枝子
仝　稻垣壽々子
仝　財津いく子
仝　淺野あさ子
仝　莊司駒子
仝　正木操子
仝　關良子

・本日左記の寄贈を受領したるを以て金員の外は一般會員へ贈呈せり

一金壹圓　篠原みわ子
一寫眞特別優待券三百葉　小幡氏爾君
一成立舍名刺印刷優待　篠原みわ子
一寫眞優待告知書二百葉　保坂雅秀君
一洋食料理精撰告知書百五十葉　根門てい子

●本會入會者

○事務所申込
●大阪西區京町堀通り一ノ四四　特別會員　福岡幸子

○特別會員高橋瑞子紹介
●横濱市靑木町三百十番地　通常會員　飯野わか子
●麻布區谷町五十六　通常會員　秋山梅子
●茨城縣眞壁郡下館町五百　通常會員　間々田とよ子
●赤坂區靑山南町六ノ百三十一　通常會員　淺田みか子

○莊司森之助紹介
●日本橋區本銀町二ノ十二　通常會員　秋谷與志子

○特別會員穗積松子紹介
●赤坂區靑山南町六ノ七十八　通常會員　國島梅子
●麻布區三河臺町三十二　特別會員　白石まむ子

○深川井澤ろく子紹介
●深川區西平井町　通常會員　荒川よし子
●深川區西平井町　通常會員　澤地きせ子

○幹事岡田德子紹介
●岩代國安積郡郡山本町　特別會員　佐藤けさ子

○小石川中村銑子紹介
●本郷區駒込追分町三十一　通常會員　坂本浪子

○小石川佐藤俊子紹介
●小石川區高田豐川町日本女子大學校　通常會員　井上しづ子
●小石川區高田豐川町日本女子大學校　通常會員　大岡つたゑ子

○幹事鳩山春子紹介
●牛込區東五軒町廿九　通常會員　小川孝子

○四谷石川さだ子紹介
●四谷區内藤町一番地　通常會員　奧村ふみ子
●四谷區大番町四十二番地　通常會員　磯村かほる子

○芝山田米子紹介
●府下荏原郡北品川新宿百六十七　通常會員　松崎直子

○神田大井まさ子紹介
●麹町區飯田町六ノ十二　通常會員　河野　正子
○深川堀越みつ子紹介
●深川區富岡門前町堀越方　通常會員　富士　ふみ子
●京橋區築地明石町五十一　通常會員　若竹　千代子
○日本橋杉浦いと子紹介
●日本橋區久松町廿九　通常會員　藤原　小照子
○麻布山口まき子紹介
●長崎縣壹岐郡柳田村　通常會員　横田みさを子
○長崎吉富霜子紹介
●長崎縣嚴原宮谷町四十九　通常會員　佐土原いね子
○本郷武笠美以子紹介
●神田區西小川町一ノ九　通常會員　友田　多勝子
●小石川區掃除町三十五　通常會員　新妻　要子
○長崎大木珠子紹介
●長崎市新町三番地　通常會員　江口　春子
○ドクトル久保田氏紹介
●下谷區西町三番地阪井方　通常會員　福田　よね子

●茨城支會入會者

○小野まつ子紹介
●福島縣相馬郡中村町　通常會員　岡田　くに子
○大沼てう子紹介
●那珂郡瓜連尋常小學校内　通常會員　榊　あさ子

●新潟支會入會者

○副會長田中いね子紹介
●新潟市西堀通五番町　通常會員　澤田　貞子
○幹事河上ふさ子紹介
●新潟市鉄川岸三丁目　通常會員　小島　たき子

●千葉支會入會者

○高梨みよ子紹介
●全市　通常會員　白井　某子

●宇都宮支會入會

○講師神野勇三郎君紹介
●宇都宮市小幡町　通常會員　高橋　定子
○幹事淺田とみ子紹介
●宇都宮市西福田町　通常會員　小田切とわ子
○評議員高崎うた子紹介
●宇都宮市西塙田町　通常會員　原　よう子

●高崎支會入會

○幹事林應智子紹介
●高崎市宮元町百二十三　通常會員　關口　はま子
●高崎市柳川町　通常會員　砂崎　乙枝子
○特賛士谷全次君紹介
●高崎市本町三番地　通常會員　稲井　くに子
●高崎市柳川町九十一　通常會員　稲田くわう子
○山越千代子紹介
●高崎市柳川町百三十六　通常會員　藤波　ふし子

轉居

▼會員諸姉御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所迄御一報相願候

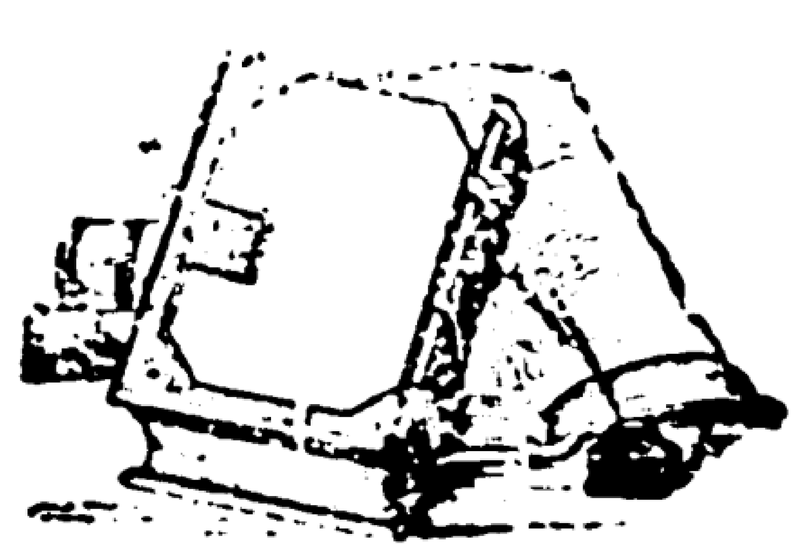
●日本橋區久松町杉浦看護婦會へ　萩原　みよ子
●長門國下關市新町一丁目へ　安達　貞子
●臺灣臺南廳臺南市西轅門街二十へ　門垣　宇乃子
●静岡縣周智郡森町四百六十へ　青木　せつ子
●麻布日本赤十字社病院へ　山田　筆子

● 赤坂區青山穩田三十二へ　加藤つる子
● 芝區松本町三十二、但川岸通へ　長野敬子
● 京橋區築地明石町九十七へ　久保田郁子
● 淺草區道八ノ一、上山氏方へ　高橋のふ子
● 兵庫縣飾磨郡水上村ノ内野里村へ　片岡久滿子
● 小樽區妙町二ノ三十へ　中江おし子
● 日本橋區藥研堀町十五へ　荒木てつ子
● 牛込區市谷砂土原町二ノ一へ　加藤春路子
● 佐賀縣東松浦郡相知村三菱炭坑へ　杉木千世子
● 京都府下東舞鶴字北吸十一へ　千布都代子
● 駿河國安倍郡豐田村曲金二十六へ　海野和歌子
● 京橋區岡崎町一ノ十へ　高堂ふさ子
● 山形市新築道二百五十五へ　陶原かめぬ子
● 東京ヨリ轉地先不明　和田松子
● 芝區櫻川和泉町九へ　大谷作子
● 本郷區新花町七十四へ　島田政子
● 牛込區市ケ谷仲町六十へ　杉本かわ子
● 信州北佐久郡志賀小學校へ　小林喜重子
● 麴町區紀尾井町三へ　岩下ゆか子
● 臺灣臺北南門街二ノ十五、土地調査局官舍八ノ九宅へ　森田みつ子
● 甲府市稻門へ　河村孝子
● 麻布區東鳥居坂町十番地へ　麻生富久子
● 小石川區原町十三番地へ　中村銑子
● 肥前國長崎市櫻町十八番地へ　菅野貞子
● 下關市大字竹崎町三百七十番地へ　大田やす子
● 牛込區早稻田南町四十三へ　高水とみ子
● 大坂市西區九條南通二番道路四號五八四へ　早川しか子
● 群馬縣碓氷郡安中町大字安中驛百五へ　岡村きつ子
● 名古屋市下前津町二百二十七へ　安田定子
● 小石川區音羽町九ノ二十一へ　作照子
● 芝區櫻川町二十番地へ　三浦錚子
● 神戸市山本通四ノ六十二へ　桑原春子
● 赤坂區丹後町九十五へ　浦原和歌子
● 臺灣臺南城內保四宮街三十六へ　山崎菊子
● 赤坂區福吉町二へ　村上都子
● 深川區富岡門前町四十七へ　鶴越みつ子
● 本郷區西片町十、ホノ十一へ　飯田たつ子
● 牛込區原町二ノ十七へ　堺淺子
● 長野縣下高井郡科野村奈天堂醫院へ　佐野久子
● 福岡市博多瓦町六十五へ　仙田花子
● 安房國安房郡岩井村竹内一三八　川崎ゆう子

● 麴町區元園町一ノ二十七へ　野上きゑ子
● 京都寺内通堀川東へ入ル西川氏方へ　河村たま子
● 宮崎縣宮崎郡宮崎町大字上別府へ　平川美知子
● 本郷區駒込曙町十三へ　松下とり子
● 芝區白金三光町養生園へ　市川梅子
● 群馬縣北甘樂郡磐戸村十へ　大井川なか子

●御注意!●

去二日總會の節烟管壹本、徽章壹個拾ひ置き候間御心當りの御方は至急御申越被下度候



愛國婦人會機關新聞

愛國婦人

毎月二回十日廿五日發行
見本郵券代用三錢

第二十八號目次

○本紙は熱心なる多數貴婦人方の同情を受くるか故に上流名家の寄稿に富む事他に其比を見ず

發行所

東京麴町大日本女學會内

愛國婦人發行所

私立大日本婦人衛生會

茨城支會規則

第一條 開設の趣旨及目的 凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必ず衛生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に隸して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項なして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已●第二條本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●第三條本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徴集代は豫め前納せらるへし●第五條會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むると●第六條男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす其の會費は本支會員に全じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知するへし。(死亡等は親戚知人より通知せらるへし)●第九條本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●第十條役員は任期満一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるべし)●第十二條集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるへし●第十三條毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演說又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるへし)●第十四條講義演說等は男子の傍聽を禁ず但し贊成員若しくは會員の緣故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絕することあるへし●第十五條毎會開會の實況等を本部へ送致するものとす●第十六條會計本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす●第十七條本支會々費の收入金は其一部を便宜本部へ回送するものとす●第十八條總會に於て會計の收支決算及役結果を報告するものとす●第十九條會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるへし●第二十條前記に記述したる數條の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす●第二十一條本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非されば漫に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

水戸市上市川見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衛生會

高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條當支會は大日本婦人衛生會に隨し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列することを得但時宜により男子參列は謝絕することあるべし●第十二條本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上前納すべし●第十四條支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等の規則を確實に勵行すべし●第十八條特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

●事務所 高崎市寄合町五十番地

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢通常會員仝金貳拾錢 支會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條入會せんとするものは 役員に申出て其承認を得べし●第四條會費毎月拾五錢以上を納むるものには 本會衛生雜誌を配布す●第五條會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す 各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を執行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては 特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし 會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助 天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市學校町二番町四十七
和田くに子方

明治廿九年四月創立

新潟支會

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き 講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ 會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは 其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル片ハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ陪聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ



●●六月以降徽章料改正

●通常會員章
第三號
メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黑塗箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らす御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又た價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數に應じ本會雜誌進呈の事

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　田中徳三郎　東京牛込區矢來町三番地

印刷人　渡邊智　東京牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地

明治卅六年五月二十三日印刷及發行
婦人衛生雜誌第百六拾二號（毎月一回十五日發行）

東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地　株式會社秀英舎第一工場印刷